



重修政和經史證類備用本

草卷第四

已酉新  
增衍義



成都唐

慎微續證類

中衛大夫康州防禦使修建明堂所醫藥提舉人內醫官

編類聖濟經提舉大醫學士臣曹孝忠奉 敕校勘

玉石部中品總八十七種補五金銀鐵鹽

一十六種神農本草經補四內

七種名醫別錄

七種唐本先附注云唐附

八種今附皆醫家嘗用有

三種新補

一種新分條



三種圖經餘

一種唐慎微續補

一種唐本餘

四十種陳藏器餘

雄黃

石硫黃

雌黃

食鹽

自米部今移

水銀

石膏

玉火石附

金屑

銀屑

生銀

今附朱砂銀續注

靈砂

唐慎微補

水銀粉

新補

磁石

磁石毛續注

玄石

綠鹽

凝水石

陽起石

孔公孽

殷孽

蜜陀僧

唐附

鐵精

鐵葉淬鐵水針砂鍛鑊下鐵屑刀刃犁鏡尖續注

鐵漿

元附鐵精下新分條

秤錘

今附鐵杆鐵鑄是續

鐵華粉

今附

生鐵

鐵粉

鐵落

鋼鐵

鐵

石腦

理石

珊瑚

石蠟

今附淨石續注

長石

馬銜

礪石

新補

石花

唐附

桃花石

唐附

光明鹽

唐附

石牀

唐附

膚青

馬腦

新補

太陰玄

精今附並精附

車轄

今附

石蛇

圖經餘

黑羊石

圖經餘

白羊石

銀膏

唐本餘

天子藉田三推犁下上

社壇四角土

四十種陳藏器餘



土地

市門土

自然灰

鑄鍾黃土

戶垠下土

鑄鐸鈕孔中黃土

竈墻中裏白灰

彈丸土

執日取天星上土

大甌中蒸土

蚋糞壤堆上土

塚上土及磚石

桑根下土

春牛角上土

土蜂窠上細土

載鹽車牛角上土

驢溺泥土

故鞋底下土

鼠壤土

屋內墻下蟲塵土

鬼屎

寡婦床頭塵土

牀四脚下土

瓦甑

井土

二月上壬日取土

柱下土

胡鷺窠內土

道中熱塵土

正月十五日燈盞

仰天皮

蟻穴中出土

古博

富家中庭土

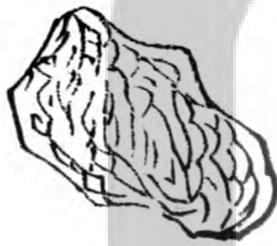
百舌鳥窠中土

猪槽上垢及土

故茅屋上塵

諸土有毒

階州雄黃



階州水窟雄黃



雄黃味苦其平寒大溫有毒主寒熱鼠瘦惡瘡疽痔死肌癩  
 疥蟲匿瘡目痛鼻中息肉及絕筋破骨百節中大風積聚癰  
 氣中惡腹痛鬼疰殺精物惡鬼邪氣百蟲毒勝五兵殺諸蛇  
 虺毒解藜蘆毒悅澤人面煉食之輕身神仙餌服之皆飛入  
 人腦中勝鬼神延年益壽保中不飢得銅可作金一名黃食



石生武都山谷燉煌山之陽採無特

皆○陶隱居云煉服之法

亦出黃白術中晉未已來氏羗中紛擾此物絕不復通人  
問時有三五兩其價如金合九皆用石門始興石黃之好  
者爾始以齊初涼州互市微有所得將不至都下余最先見  
於使人陳典籤處檢獲見十餘片伊輩不識此是何等見  
有袂雄黃或謂是丹砂示吾吾乃堅實若黧黑及虛軟者不  
漸而末好者作雞冠色不臭而堅實若黧黑及虛軟者不  
好也武都氏羗是為仇池宕昌亦有與仇池正同而小劣  
燉煌在涼州西數千里所出者未嘗得來江東不知當復  
云何此藥最要無所不入○唐本注云出石門名石黃者  
亦是雄黃而通石黃食石而石門者最為劣爾宕昌武都  
者為佳塊方數寸明澈如雞冠或以為枕服之辟惡其青  
黑堅者不入藥用若火飛之而療瘡亦無嫌又云惡者名  
重黃用熏瘡疥故名之無別重黃也止觀年中以宕州新  
出有得方數尺者但重脆不可全致之爾○臣高錫等謹  
按吳氏云雄黃神農苦也○本經云黃水出山之陽故曰雄  
是丹之雄所以名雄黃黃也○神異採常以冬月祭祀鑿石深數  
連坐山溪出雄黃頗有神異抱朴子云雄黃當得武都山所  
出方得故溪水取名焉○雞冠光明擘擘者乃可用耳其  
純黃者似雌黃無雜其赤如雞冠作仙藥可以合理病藥耳○

圖經

曰雄黃生武都山燉煌山之陽今階州山中有一黑  
色而堅者名雄黃其色如雞冠者為真黃並不入  
服食藥只可療瘡疥耳其臭似真而氣臭者名臭黃並不入  
真用之尤宜細辨又階州接西戎界出一種水窟雄黃其  
於山巖中有水泉流處其石名青煙石白鮮石雄黃出其  
中其塊大者如胡桃小者如栗豆上有孔竅其色深紅而  
微紫體極輕虛而功用勝於常雄黃丹竈家有所貴重或  
云雄黃金之苗也故南方近金坑治瘡時或有之但不及  
西來者真好耳謹按雄黃治瘡瘡尚矣周禮瘍醫凡瘡瘍  
以五毒攻之鄭康成注云今醫方有五毒之藥作之合黃  
整置石膽丹砂雄黃礬石慈石其中燒之三日夜其煙

藥性論云雄黃殺百毒又名黃石味辛有大毒能  
治尸疰辟邪毒物不殺傷人○蕭炳云雄黃君○陳藏器  
云按石黃今人敲取中精明者為雄黃外黑者為熏黃主  
惡瘡殺蠱重瘡疥藥蟲及和諸藥熏敷其武都雄黃燒不  
臭熏黃中者燒則臭以此分別之蘇云通名未之是也○  
日華子云雄黃微毒治疥癬風邪癩癧嵐障一切蛇豕犬  
獸傷咬久服不燥通亦亮者為上驗之可以協蟲死者為  
真臭氣少細嚼中  
含湯不激棘者為通  
圖經曰雄黃生武都山燉煌山之陽今階州山中有一黑  
色而堅者名雄黃其色如雞冠者為真黃並不入  
服食藥只可療瘡疥耳其臭似真而氣臭者名臭黃並不入  
真用之尤宜細辨又階州接西戎界出一種水窟雄黃其  
於山巖中有水泉流處其石名青煙石白鮮石雄黃出其  
中其塊大者如胡桃小者如栗豆上有孔竅其色深紅而  
微紫體極輕虛而功用勝於常雄黃丹竈家有所貴重或  
云雄黃金之苗也故南方近金坑治瘡時或有之但不及  
西來者真好耳謹按雄黃治瘡瘡尚矣周禮瘍醫凡瘡瘍  
以五毒攻之鄭康成注云今醫方有五毒之藥作之合黃  
整置石膽丹砂雄黃礬石慈石其中燒之三日夜其煙







斗門方 帶頭上以一鬼

博濟方 治偏頭左邊疼至靈散雄黃細辛等分研令細每用一

續十全方 治水腫喉痛急灌吐下差塊新

集驗方 治卒厥雄黃細辛研入鼻中

傷寒類要 治小腹痛滿不

又方 殺齒塞牙間

抱朴子 之或法或以蒸或於赤土下或以硝石化為水或以

三物煉之或以猪脂裹蒸之如生十日正女未侍可使人病除三

尸下癩痕引之如布白齒如生十日正女未侍可使人病除三

志者鬼試人也黃上為誌 大如黍米在鼻上是真玉女無此

許未傳之登時愈蛇雖 多種唯蝮蛇及青金蛇中人為至

急不洽一之日即死其人 既治之方術者為二蛇中人即

此蛇急割瘡肉投地其肉 沸如火炙須臾盡焦而人得活也

太平廣記

亦焦木即 劉無名成都人也志希延生謂古方草木之藥但

力我乃入霧中山嘗遇人教服雄黃凡三十餘年一日有

二子赤中朱服經詣其室劉問何人對曰我泰山直事

將欲陰符不子以何術我罪已三日見形相問劉曰而無計近

但冥心至道不視聲利高數尺得非雄黃之坊乎今二使

子之黃光照灼於頂迨高數尺得非雄黃之坊乎今二使

尸已去而積功未著大限既盡將及死期豈可苟免劉聞

其語心慮憂迫不知所為二使謂之曰死期豈可苟免劉聞

府真可以求真師訪尋要道我聞金汞朱砂之可致沖天此非

高真上仙須得修煉之旨復入青城北崖之下見一洞行

本草四 六 李八百



重履長至初則十月離胎已成初品即能乾承成銀丸  
 而服之可以祛疫一年之外服者延年益壽白髮反黑二  
 年之後服之刀圭散居名山周遊四海為初品也此藥  
 半劑變化萬端生在去駕取飛龍白日昇天大都此藥  
 經十節已為中品便能使人長生藥成之日五金八石  
 黃牙諸物與君臣二藥不相雜亂千日功畢名上品還丹  
 謹而藏之勿示非人世上有其人視形氣功行合道依而傳  
 駐於蜀白述無名傳以示後  
 太上八帝玄變經小丹法用雄黃相子拘臈制臈方相子細  
 色如赤率合藥白中復搗如蒸藥一日如餌正  
 坐此向平旦頓服五九百日之後與神人交見  
 明皇雜錄有黃門奉使交廣回周顧謂曰世人腹中有蛟龍  
 大熱因且渴遂飲水覺腹中堅痞如石周遂以硝石及雄  
 黃煮服之立吐一物長數寸大如指視之鱗甲具投之水  
 中俄頃長數尺復一苦酒沃之如故以  
 器覆之明日已生一龍美上甘四謂之  
 唐書二歲立言診日腹有蟲誤合八髮而然令餌雄黃一劑少殺毒蟲之驗也

項吐一蛇如人小指惟心  
 無目燒之有髮氣乃念心  
**寶藏論** 雄黃若以草藥住者上可服食中可點銅成金下  
 諸藥成汁并添但行者上可服食中可點銅成金下  
 成銀 成金

**丹房鏡源** 雄黃千年  
 化為黃金  
**行義曰** 生雄黃非金苗今上月金窟處處無雄黃金條中言金之所  
 燻蛇遠去文武都者此與磨成磨形中不免其臭唐甄立言  
 仕為大常丞有道人心腹懣煩爾二歲診曰腹有蟲  
 食髮而然令餌雄黃一劑少殺毒蟲之驗也  
 指無目燒之有髮氣乃愈此殺毒蟲之驗也

**廣州石硫黃**



**榮州土硫黃**





石硫黃味酸温大熱有毒主婦人陰蝨疽痔惡血堅筋骨除

頭禿療心腹積聚邪氣冷癖在脅欬逆上氣脚冷疼弱無力

及鼻衄惡瘡下部匿瘡止血殺疥蟲能化金銀銅鐵奇物生

東海牧羊山谷中及太山河西山礬石液也

而箕山亦有今第一出扶南林色色如鴿子初出殼名崑

崙黃次出外國從蜀中來色深而煌煌俗方用之療脚弱

及痼冷甚良仙經頗用之所化奇物並是黃白術及合丹

法此云礬石液今南方則無礬石恐不必爾○臣禹錫等

謹按吳氏云礬黃一名石礬黃神農黃帝雷公鹹有毒醫

和扁鵲苦無毒或生易陽或河西或五色黃是礬水石液

也燒令有紫焰者八月九月採治婦人血結○藥性論云

石硫黃君有大毒以黑錫煎湯解之及食宿冷猪肉味其

大陽之精鬼焰居焉伏煉數般皆傳於作者能下氣治脚

弱腰腎久冷除冷風頑痺又云生用治疥癬及瘰癧寒熱欬

逆煉服主虛損泄精○蕭炳云硫黃臣○日華子云石亭

脂曾青為使畏細辛飛廉鐵牡陽道治疰瘕冷氣補筋骨

勞損風勞氣止嗽上氣及下部痔瘻惡瘡疥癬

殺腹脹蟲邪魁等煎餘其子汁以禦其毒也

口也石硫黃生東海牧羊山谷中及太山河西山礬石液

如鴿子初出殼者色白真謂之崑崙黃其色亦不佳甚佳以色

青色者礬黃結石半白半黑名神鷲石並不堪入藥又有

海藥

主風冷虛癆腎冷上氣脚膝虛羸長肌骨益氣力遺精

海藥主風冷虛癆腎冷上氣脚膝虛羸長肌骨益氣力遺精

海藥主風冷虛癆腎冷上氣脚膝虛羸長肌骨益氣力遺精

海藥主風冷虛癆腎冷上氣脚膝虛羸長肌骨益氣力遺精

海藥主風冷虛癆腎冷上氣脚膝虛羸長肌骨益氣力遺精

海藥主風冷虛癆腎冷上氣脚膝虛羸長肌骨益氣力遺精



水并藥等... 出用... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

外堂秘要... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

財後方... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

經驗方... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

梅師方... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

博濟方... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

先將... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

氣終... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

豆作... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

雞頭... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

六分... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

一盞... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

切在... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

為候... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

或服... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

孫尚藥... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

鑿半... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

王函方... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

鐵匙... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

更煮... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

待水... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

用鐵... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

飯之... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

字極... 治諸... 研於... 入... 中... 研... 萬... 諸... 藥... 取

太清服煉靈砂法... 石之... 精氣... 通... 藥



品之中... 返濁還清... 品之中... 返濁還清... 品之中... 返濁還清...

丹房鏡源 石硫黃... 丹房鏡源 石硫黃... 丹房鏡源 石硫黃...

青霞子 硫黃... 青霞子 硫黃... 青霞子 硫黃...

行義曰 石硫黃... 行義曰 石硫黃... 行義曰 石硫黃...

劑世人不蓋... 劑世人不蓋... 劑世人不蓋...

又常服者... 又常服者... 又常服者...

先利如病... 先利如病... 先利如病...

陶州唯黃



雌黃味辛其平大寒有毒主惡瘡頭禿痂疥殺毒蟲身癢

邪氣諸毒蝕鼻中息肉下部蠱瘡身面白駮散皮膚死肌及

恍惚邪氣殺蜂蛇毒煉之入服輕身增年不老令人腦滿生

武都山谷與雄黃同山生其陰山有金精重則生雌黃採

無時色小赤扶南林邑者謂崑崙崑崙色如金而似雲母甲錯

畫家所重... 畫家所重... 畫家所重...

法當以武... 法當以武... 法當以武...

空雌以合... 空雌以合... 空雌以合...

圖經曰 雌黃... 圖經曰 雌黃... 圖經曰 雌黃...

析者為佳... 析者為佳... 析者為佳...

雷公云 凡使... 雷公云 凡使... 雷公云 凡使...



勿令婦人雞犬新犯... 獄地臭穢... 三件乾濕... 去水取在... 聖惠方... 治烏癩... 又方... 治婦人... 又方... 治心... 又方... 治... 每服... 薑湯... 百一方... 內天行病... 經驗方... 縮小便... 斗門方... 治肺勞... 定頂... 以火煨... 勝金方... 治久嗽... 水調赤石... 炭十斤... 鏡面... 寶藏論... 實藏論... 外房鏡源... 可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

聖惠方 治烏癩... 又方 治婦人... 又方 治心... 又方 治... 每服... 薑湯... 百一方 內天行病... 經驗方 縮小便... 斗門方 治肺勞... 定頂... 以火煨... 勝金方 治久嗽... 水調赤石... 炭十斤... 鏡面... 寶藏論... 實藏論... 外房鏡源... 可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

又方 治... 每服... 薑湯... 百一方 內天行病... 經驗方 縮小便... 斗門方 治肺勞... 定頂... 以火煨... 勝金方 治久嗽... 水調赤石... 炭十斤... 鏡面... 寶藏論... 實藏論... 外房鏡源... 可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

斗門方 治肺勞... 定頂... 以火煨... 勝金方 治久嗽... 水調赤石... 炭十斤... 鏡面... 寶藏論... 實藏論... 外房鏡源... 可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

寶藏論... 實藏論... 外房鏡源... 可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

外房鏡源... 可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

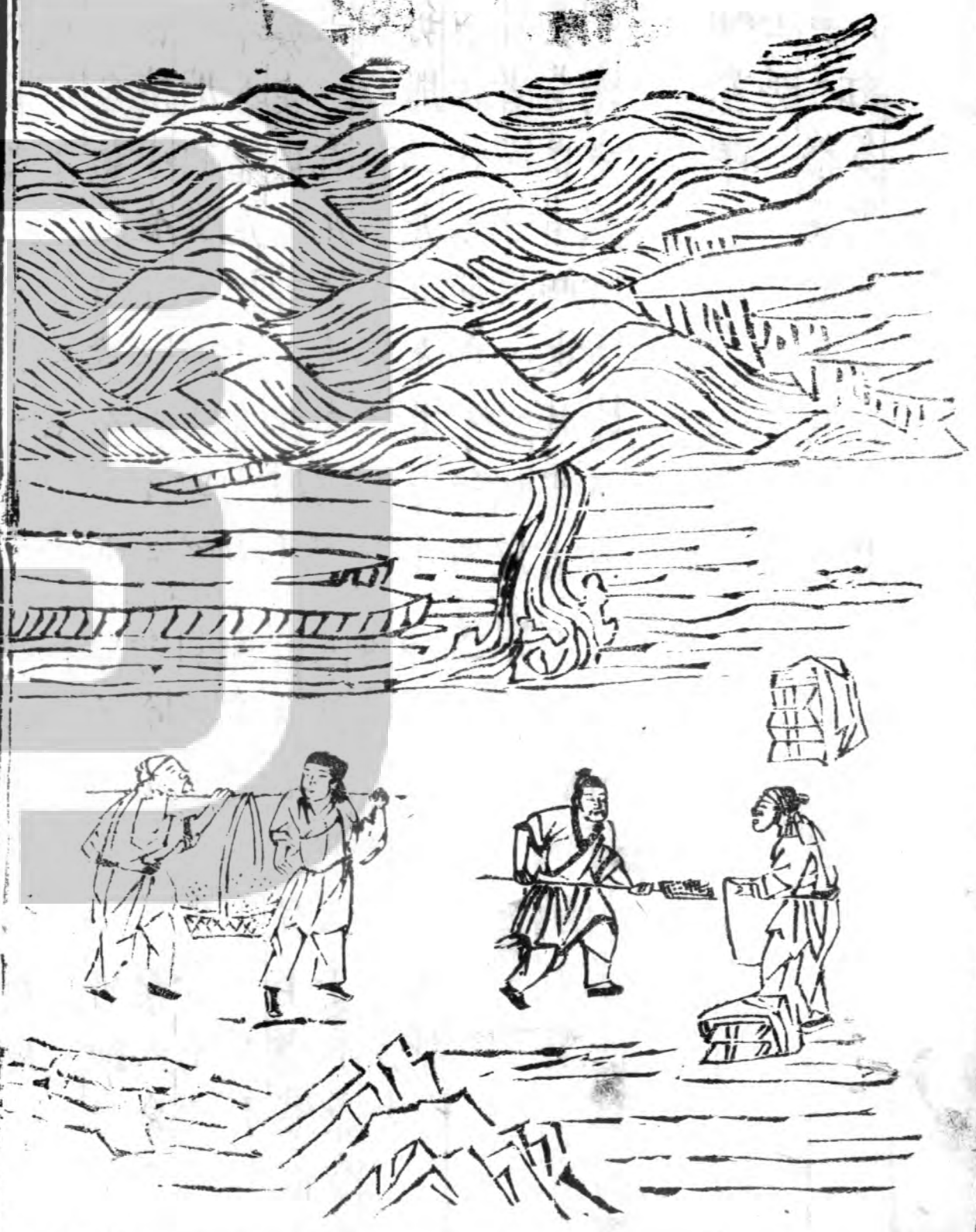
可恨使... 行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

行義曰... 點化術... 藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之

藥最稀... 石者宜... 始如何... 畫外功... 或用之



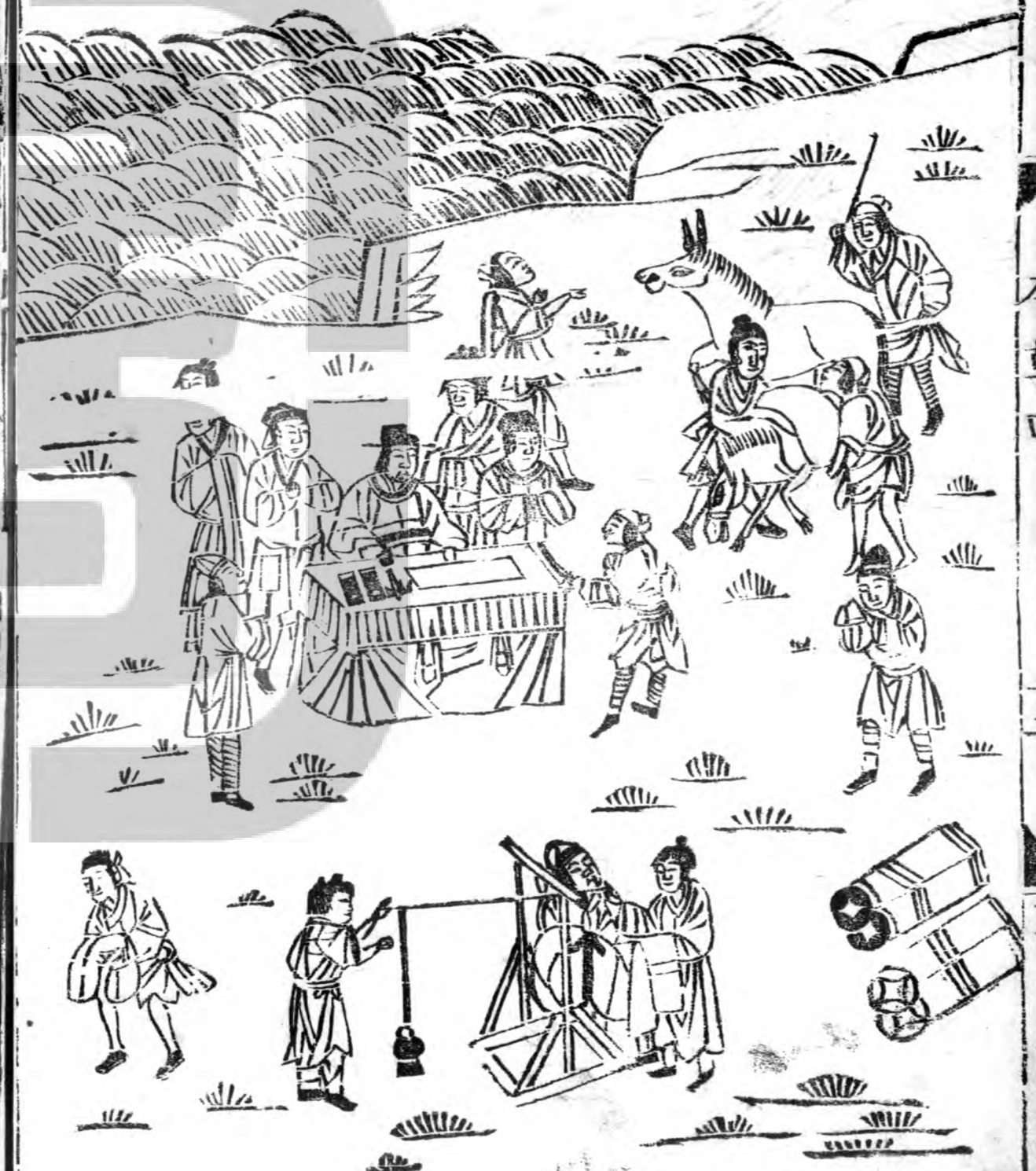
解 鹽



卷四

頁子前







食鹽味鹹温無毒主殺鬼蠱邪疰毒氣下部置瘡傷寒寒熱

吐胃中痰癖止心腹卒痛堅肌骨多食傷肺喜欬云陶隱居

中惟此不可闕有東海北海鹽及河東鹽池梁益井交

廣有南海鹽西越有山鹽胡中樹鹽而色類不同以河

東者為勝東海鹽官鹽白草粒細北海鹽黃草粒禽以作

魚蘇及鹹菹乃言北勝而藏蘭必用鹽官者蜀中鹽小淡

廣州鹽鹹而多壽少知其為療體復有優劣否西方人食

不耐鹹而多壽少知其為療體復有優劣否西方人食

壽多病便是損人則傷肝之効矣然以浸魚肉則能經久

不敗以沾布帛則易致朽爛所施處各有所宜也○今注

唐本元在木部今移○臣禹錫等謹按蜀本云多食令人

夫色膚黑損筋力也○藥性論云鹽有小毒觸殺一切毒

氣鬼疰氣主心痛中惡或連腰臍者鹽如雞子大青布裹

洗赤內酒中頓服當吐惡物主小兒卒不尿安鹽於臍中

熨之面上五色瘡鹽湯綿浸楊瘡上日五六度易差又和

槐白皮切蒸治脚氣又空心措齒少時吐水中洗眼夜兒

小字良治婦人隱處疼痛者鹽青布裹熨之主鬼疰尸疰

下部蝕瘡炒鹽布裹坐灸之煎生火灼瘡○凍藏器云按

鹽本功外除風邪吐下惡物殺蟲明目去皮膚風毒熱和

腑臟消宿物令人壯健人卒小使不通沙鹽內臍中即下

陶公以為損人斯言不當且五味之中以鹽為主四海之

圖經曰

食鹽舊不著所出州郡○陶隱居云有東海北海鹽

及河東鹽池梁益有鹽井交廣有南海鹽西越有山

鹽湖中有木鹽而色類不同以河東者為勝河東鹽末

乃刮鹹煎煉不甚佳其鹹蓋下品所著鹵鹹生河東鹽池

者謂此也下品又有大鹽生邯鄲及河東池澤蘇恭云大

鹽即河東印鹽人之常食者形禽於未鹽乃似今解鹽也

辭人取蓋於池傍耕沃以池水每鹽南風急則宿皆成

溫台明泉福廣瓊化諸州官場煮海水作之給民食者

又謂之澤鹽醫方所謂海鹽是也其煮鹽之器漢謂之牢

盆今或鼓鐵為之或編竹為之上下同以蜃灰廣文課尺

平底實於竈皆謂之鹽盤南越志所謂織篾為鼎和以杜

礪是也然後於海濱掘地為坑上布竹木覆以蓬茅又積

砂於其上每潮汐種沙鹵鹹淋於坑中水退則以火煇

之鹵氣衝火借成因取海鹵注盤中煎之頃刻而訖管子



曰齊有渠展之鹽伐蘆薪煮海水狂積之十月始生至于  
正月成三萬是也蘆薪謂以茅茹燃火也梁益鹽井者今  
歸州及四川諸郡皆有鹽山鹽湖中木鹽者即下條云光  
但鹽生彼方之民耳西羌山鹽湖生及西羌北地酒泉福  
明鹽東南角北海青南海赤者胡鹽也然羌胡之鹽類自  
多陶注又云虜中鹽有九種白鹽食鹽常食者黑鹽柔鹽  
赤鹽駝鹽臭鹽馬齒鹽之類今人不識備識醫家治眼及  
補下藥多從西羌來者形塊方稜明瑩而青黑色最奇北湖  
今青鹽從西羌來者形塊方稜明瑩而青黑色最奇北湖  
來者作大塊而不光瑩又  
蓋彼人謂之鹽枕入藥差  
碎不知是何色類又謂之青鹽  
自然成鹽色甚明瑩彼人  
不用故不能盡分別也又  
輪官如并州末鹽之類以  
於并州末鹽也濱州亦有  
不堪入藥但可取馬耳又  
青銅屑釀之為塊綠色真  
若扁青空青今不聞識此  
三死治霍亂鹽湯方云元

能吐下不絕利出  
湯入口吐物溫氣  
便一升二物溫氣  
崔中丞煉鹽黑丸方  
訖初以塘火燒漸  
即去火其鹽冷即  
和麩熬令熟巴豆二  
得所熟即少力生又  
和如梧子每服三  
下並得服後多喫茶  
欬下初變水煎後使  
菜水合藥又則丸稍  
日忌口兩日則生痢苦  
小食時已來不吐痢  
其藥冬中合臘月尤  
諸藥不得又恐過時  
將此藥一刀圭如敵  
里間及所使葦若小  
方又有藥益法出於  
食療又治一切瘡氣及脚  
汗三大斗許氣即絕  
通其法用鹽一大匙  
少項吐下即愈劉禹  
加炭火勿令破候赤  
破瓶取之或一服外  
大兩去心膜紙中熬  
損人四物各用研搗  
丸若平旦時服天行  
行藥力且時服天行  
止鬼瘧茶飲下骨熱  
加令大凡服藥後吐  
多即煎黃連汁服之  
或遇殺藥人即更服  
一甕盒子中盛貯以  
劑可救百人在村落  
道途或在村人天行  
黃仲子不可數兩曾  
文仲唐之大夫多攪  
一斗煮取六升以綿  
取鹽三升蒸候熱分  
草四



之令脚心熱又和提  
以皂莢兩長蓋半兩  
後有動者齒及血  
齒並差其齒牢固  
聖惠方治小兒驚風濕以上蓋二兩或三合相和嚼搗捏作餅  
子如錢大安新瓦上蓋令熱以熨臍上差亦用黃藥

未傳  
又方治肝臟氣虛風冷搏於筋偏體轉筋入腹  
不可忍熱湯三斗入蓋半斤稍熱漬之効  
外臺秘要治胃心痰飲傷寒熱病庫瘧須吐吐者以蓋末一六  
是以水或煖湯送下須臾則吐吐不快明旦更服

良甚

又方治天行後兩脇脹滿熬蓋熨

又方療風身體如蟲行蓋一斗水一石煎成

千金方治齒斷宜露每旦檢蓋內口中以熱

又方治逆生以蓋塗兒足底又可急

千金翼單方救不効以蓋塗之妙

肘後方治中風但腹中切痛以蓋半斤熬令

又方齒疼斷間出血極驗以蓋末每夜厚封齒斷上有汗癢

尤佳長忌猪魚油菜等

又方卒得風覺耳中恍惚者急取蓋五

又方治耳卒疼痛

又方手足忽生疣目以蓋傳疣

又方治金瘡中風煎蓋令熱以匙抄灑却水熱

又方治赤白久下穀道疼痛不可忍宜服

經驗方治此蟲所咬其形如大風眉鬚皆落每夕點明鳴於

有僧教以此方愈



梅師方 治心腹脹堅痛悶不食吐下欲死以鹽五合

又方 治金中經脈傷皮及諸大脉血出多心

又方 治瘡極妙其人痛不止者螫人黃足者痛甚

又方 治熱病下部有蠶蟲生瘡炒

孫真人食忌 鹽綿裹其下部有蠶蟲生瘡炒

又方 主治卒喉中生肉以綿裹筋

又方 主卒中尸道其狀腹脹氣急衝心或

食醫心鏡 鹽止心腹卒痛堅肌下部蠶瘡傷寒熱吐胃中痰癖

亂又主大小腸不通取鹽

廣利方 治氣淋臍中乾即易

集驗方 主毒箭以鹽貼瘡

范汪方 主轉筋以湯洗一升水

又方 豆許內目中淚出不得開即刺痛

產寶方 治妊娘心腹痛不可忍以

子母秘錄 小兒撮口撮酒

後魏李孝伯傳 黑鹽治腹脹氣滿

素問 鹽勝血發

丹房鏡源 煎消作汁

衍義曰 食鹽素問曰鹹走血故東方食魚鹽之人多黑色

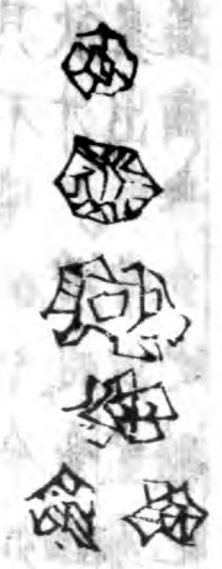
海取其不壞也至如今如

宜湯化飲其不壞也至如今如

救齒縫中益齒出血常以鹽湯



取朱銀砂



煨銀水



水銀味辛寒有毒主疹癩癩瘍白禿殺皮膚中蟲墮胎除熱以傳男子陰陰消無氣殺金銀銅錫毒鎔化還復為丹久服

神仙不死一名永生符陵平土出於丹砂畏慈石○陶隱居

此云生符陵平土者是出朱砂腹中亦別出砂地皆青白及生者其能消化全銀使成泥人以鑊物是也還復為丹俗事出仙經酒和日暴服之長生燒時飛著釜上灰名汞粉因熟氣未聞朱砂腹中自出之者火燒飛取人肯解法南接陳藏器本草云水銀雖少而朱砂不損但去熱毒入耳能食

腦至盡入肉令百節舉縮到陰絕陽人患瘡疥多以水銀物火炙炭之○水銀得金當出蝕金候金色白者是也如此性論云水銀○金錫等藥伏煉五全為泥生能墮胎也還丹之元丹綠殺蟲○日華子云水銀無毒治天行熱疾唯療下死胎治惡瘡除風安神鎮心鑊金燒粉人多患風或大段使作須飲酒并肥猪肉及服鐵漿可禦其毒

圖經曰水銀乃生符陵平土今出秦州商州道州郡武軍而秦

於血粉之乃極有陵煨釐經肉大生療還性數物漆腦於丹以是須可多此平養次養次則朱州乃銀鐵漿可禦其毒今出秦州商州道州郡武軍而秦



雷公云凡使勿用草中取者并生朱漆中者勿用經別藥制

中產者其水銀色微紅衣得後用胡蘆收之免遺失若

先以紫背天葵并夜交藤自然汁二味同煮一伏時其毒

聖惠方半兩吞之銀錢子即出以

經驗後方入水銀同研成砂子九如雞頭太毒服二丸磨刀

梅師方治胎死腹中不出其母氣

又方治難產後服立差

又方治痔瘡道中蟲痒不止以水

漢武帝內傳封君達隴西人初平郡黃連五十二餘年入鳥崖

牛改號青

太清服煉靈砂法永稟五陽神之靈精會符合為

丹房鏡源蓋藉死水銀之氣也

衍義曰絕水銀入藥雖各有法極須審詳有毒故也婦人多服

及此亦宜詳諦得銀則疑得確黃則結併棗肉研之則散

服之以下血此四年按中為空宮以水銀蓋封四際燒為丹砂

公以世誠工部尚書歸登自說既服水銀得病若有燒

其苗蕭得水銀其下雜而為火射數年以斃

人曰我待秘藥不可獨不死今遺子一器可用素肉為丸

其苗蕭得水銀其下雜而為火射數年以斃



服之則一年而病後有人至訊之曰前所服藥誤方且下  
 痛不可忍此死金吾將軍李道古以柳責得罪食實藥五  
 十死海上此可為哉者此藥不死乃陳得死謂之習可不  
 可也五穀三生益醴果蔬人所常御人相厚勉必曰強食  
 今感者皆曰二般令人天當勝賦歸臨死乃悔嗚呼家也  
 已今有水銀燒成丹砂醫人不曉研為  
 藥衣或人驚中豈不遺誤可不謹哉

**汾州石膏**



石膏味辛甘微寒大寒無毒主中風生熱心下逆氣驚喘口

乾舌焦不能息腹中堅痛除邪鬼產乳發汗止消渴煩逆腹

熱三焦大熱皮膚熱腸胃中隔氣解肌

脹暴氣喘息咽熱亦可作浴湯二名細石細理白澤者良黃

者令人淋生齊山谷及齊盧山魯蒙山採無時雞子為之

馬日壽公○陶隱居六三郡之山即青州徐州也今出錢

塘縣者亦好近道多有而大鬼相用之不及波仙經不須此○

唐本注云石膏方解石代石膏未見有真石膏也石膏生於石傍其

方解石不日石而生端然獨處大者如升小者若拳或在

土中或生溪水其上皮隨土及水苔色破之方解汗不如此

者○臣禹錫等謹按藥性論云石膏使惡巴豆畏鐵能治

傷寒頭痛如裂吐熱皮如火燥煩渴解肌出毒汗主通胃

中結煩悶心下急煩燥治瘡口乾焦和葱煎茶去頭痛○

蕭炳云石膏臣○陳藏器云陶云出錢塘縣中按錢塘在

平地無石膏陶為錯注蘇又云五石脂云五石脂中又有

石膏似骨如王堅潤服之勝鍾乳與此石膏乃是一物同

名耳不可混而用之○日華子云治天行熱狂下乳頭風

旋心煩燥指齒通亮理如雲母者上又各詳石

圖經曰興元府亦有之生於山石上色至瑩白其黃者不堪



此石與方解石絕不相類今難得真者用時惟取未破者以別之其方解石不附石而生端然獨處外皮有土及水苔色破之皆作方稜石膏自然明瑩如玉此為異也採無時方解石舊出下品本經云生方山陶隱居以此為長石一名方石療體相似疑是一物蓋亦云療熱不減石膏若然似可通用但主頭風不及石膏也又今南方醫家著一說云按本草石膏方解石大體相似但方解石不見有真石端然獨處又云今市人皆以方解石代石膏未見有真石膏也陶隱居謂石膏皆在地中一附後時時自出取之皆如棊子此又不附石生也二說相一又不知孰是今詳石膏既與方解石肌理形段剛柔皆同何以端然獨處者亦不附石豈得功力頓異至於雌黃雄黃之類亦不一也但意今之所謂石膏方解者不聞別有名號功力相異也物爾今石膏中時時有瑩者自是方解石石膏乃別具一物也今石膏中時時有瑩者似愛有縱理而不方解者有好事者或以為石膏然據本草又似長石又有議者以謂青石問往往有白酥貫徹類肉之有膏肪者為石膏此口八本草所謂理石也然不知石膏定是何物今且依市人四方解石不然博物者亦宜堅考其實也今密州九仙山東土用隅地中出一種石青白而脆擊之內有火謂之土火石山彼土醫人常用之云味其微辛溫療傷寒發汗止頭目昏眩以痛功與石膏等彼土人或以當石膏以附之

雷公云凡使勿用方解石方解石雖白不透明其性燥若一也凡使之先於石臼中搗成粉以密物羅過生其草水飛過了水澄令乾重研用之

外臺秘要蒸病五內蒸所以言內者必外寒內熱把手附骨而熱也其根在五臟六腑之中必因急後得之

滑肉自消食飲無味或皮燥而無光蒸盛之特四肢所細足跌腫起石膏十兩研如乳粉法水和服方寸匕日再以為體涼

肘後方葛氏療小便卒大數非淋令人瘦以石膏半斤搗碎水一斗煮取五升稍飲五合

梅師方治熱瘧湯火燒瘡痛不可忍取石膏搗末細研用傳瘡愈

子母秘錄治乳不下以石膏三兩水二升外煮之二沸三日飲令盡妙

太上八帝玄變經石膏

丹房鏡源石膏

別說云鑿山以取之甚多搗為末作齒藥貨用浙人呼為寒

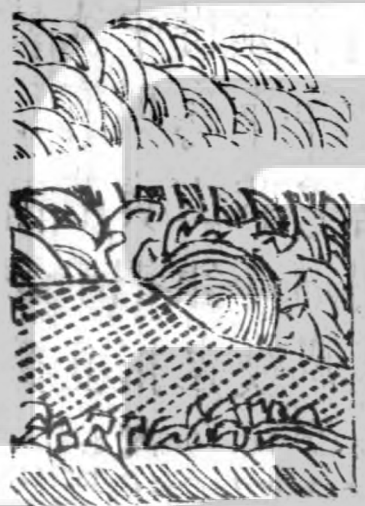


水石然入藥最勝他處者今元鑿山石而取乃是因石而  
生即石膏也陳藏器謂錢塘縣在平地無石膏乃知陳不  
明錢塘

行義曰石膏二書紛辨小次未悉厥理詳本經元無方解石  
後人遂或經曰生齊山山谷及齊盧山魯蒙山採無時即  
知他處者為非今圖經中又以汾州者編入前後人都下  
詳經中所言細理白澤者良故知不如此則非石膏也下  
有石膏條中經云知石膏順理而細又白澤者有是則所  
膏也無是則非石膏也仲景傷寒論後言四月已後天氣熱  
仲景傷寒論後言四月已後天氣熱病或大汗後麻洪大口  
痛倦怠白虎湯服之無不効

痛倦怠白虎湯服之無不効  
若傷寒熱病或大汗後麻洪大口  
痛倦怠白虎湯服之無不効

益州金屑



信州生金



金屑味辛平有毒十工鎮精神堅骨髓通利五臟除邪毒氣服

之神仙生益州採無時益寧三州多云金之所生處處皆有

生金辟惡而有毒不煉服之殺人建平晉安亦有金砂出

石中燒錄鼓鑄為礪雖被火亦未熟猶須更煉高麗扶南

及西域外國成器皆煉熟可服仙經以醞室及猪肪牡荆

酒葦煉餅柔軟服之神仙亦以合名金銀作丹砂令醫方都

無用者當是慮其有毒故也仙方名金為木真○今注醫  
家所用者當是慮其有毒故也仙方名金為木真○今注醫  
按陳藏器拾遺云嶺南人云生金是毒此用之固無毒矣  
人取金掘地深丈餘至如桑黃咬特極飲即黑焦石下有金  
大者如指小猶麻豆色如桑黃咬特極飲即黑焦石下有金  
竊而吞者不見有毒其焚金出冰砂中甞上淘取或鵝鴨

本草卷四



腹中得之即便打成器物亦不重煉煎取金汁便堪鎮心  
此乃藏器傳聞之言全非按據皇朝收復嶺表詢其事於  
彼人殊無蛇屎之事入藥當必用熟金恐後人覓藏器之  
言惑之故此明辯○臣禹錫等謹按藥性論云黃金屑金  
薄亦同主小兒驚傷五臟風癩失志鎮心安魂鬼揚損之  
云百煉者堪生者殺人水飲合膏飲之即不煉○日華子  
云金平無毒畏水銀鎮心益  
五臟添精補髓調利血脉益

圖經曰金屑生益州銀屑生永昌陶隱居注云金之所生處  
而銀所出處亦以金同但皆生石中耳蘇恭以為銀之與  
金生不同處金又出水同但皆生石中耳蘇恭以為銀之與  
人取金掘地深丈餘至紛子石皆皆一頭黑焦石下有金  
大者如指小猶若麻豆色如桑黃咬時極軟即是真金  
非是然今饒信南劍登州出金處採得之亦多端或有生  
山石狀者或有若米豆粒者若此類未經火皆可為生金  
其銀在礦中則與銅相雜土人採得之必以鉛再三煎煉  
方或故不得為生銀也故文里倉錯自然者真今坑中所  
諸坑生銀礦中狀如硬鐵文里倉錯自然者真今坑中所  
得乃在土石中參溜成條必得此乃真耳金屑古方不見  
此者極難得方書用生銀必得此乃真耳金屑古方不見

海藥云使廣州記云  
氣咳嗽傷寒肺損  
並入薄為丸散服  
極多不能備錄蔡  
間採之黔南遂府  
川治洋縣有金池  
金片遂多養收藥  
淮南子綠者熱摩令  
太清服煉靈砂法  
寶藏論凡金有二十  
金金屑砂子金白  
有還丹金水中金  
餘外並  
皆是假

丹房鏡源楚金出漢江五溪或如瓜子形雜象金帶青色若  
天生牙亦曰黃牙若制水銀朱砂成器為利術不

丹房鏡源楚金出漢江五溪或如瓜子形雜象金帶青色若  
天生牙亦曰黃牙若制水銀朱砂成器為利術不  
楚金出漢江五溪或如瓜子形雜象金帶青色若  
天生牙亦曰黃牙若制水銀朱砂成器為利術不  
楚金出漢江五溪或如瓜子形雜象金帶青色若  
天生牙亦曰黃牙若制水銀朱砂成器為利術不



藥食內有金氣毒也

青霞子 金液還丹論金末增

行義曰 如金屑不曰全而更加屑字者是己經磨屑可用之義

為薄方可研屑入藥陶隱居云凡用銀屑也獨不言金屑亦其

關也生金有薄焉能於殺水銀和成泥也

肉可解若不經煨屑則不可用難解有即穴山或至百十

其見伴深赤黃變金即在江頭如燒黑之狀此定見金也

此等皆足生金也得之昔當銷煉金更耗折少塊金新

化者如此為得更有造化之二氣也若本朝張永德字袍

鄰居臥病未德療之獲愈生一年改并州初高唯陽有言

損君福煨工畢升言祥符年嘗在禁中為方士王提

以鐵為金凡百餘兩為一餅解為八塊謂之鴨背金

藥製成非造化所成功治焉得如此之類如惠民局合紫雪

子則體柔亦相感爾

饒州銀屑



用金蓋假其自熱金氣耳然方金色淡亦土地所宜也入

惡錫又東南方金色深西南藥故不如色深者然得餘并

銀屑味辛平有毒主安五臟定心神止驚悸除邪氣久服輕

身長年生永昌採無時但陶隱居云銀之所出處亦與金同

方合鎮心丸用之不可正服兩為屑當以水銀所令消也

永昌本屬益州今屬寧州仙金為黃金服煉法此當無正主

療故不為本草所載古者赤而赤草並無用今銅青及大

錢皆入方用並是主銅應在下水中方家用銀屑當取見成



去銀薄以水為粉極細之為况合硝石及益研為粉燒出水銀所在  
皆有益石為粉極細者為勝此外多錫穢為劣高麗作帖者云  
非銀鑄所出然色青不如此魏州者又有黃銀本經不載俗  
云為器所惡乃為瑞物○臣禹錫等謹按藥性論云  
銀屑君銀薄同生定志去驚癩小兒癩疾狂走之病

圖經文具金

海藥云謹按指南越志云出波斯國有天生藥銀波斯國用為

等並入薄於九服之無毒主堅筋骨鎮心明目風熱癩疾  
益鈔銀光軟甚好與波斯銀功力相下多是難得今特燒  
煉家每出一斤生鈔止煎得一銀體骨硬不堪入藥又按唐真  
黨少山出銀甚多點中銀體骨硬不堪入藥又按唐真  
觀政要云十有年甚有理書御史權萬紀奏曰宣統二州諸山  
極有銀坑採之甚是利益太宗曰朕貴為天子無所乏少  
何假取乎是知

彼處出銀也

子母秘錄兩小三升煎取二升飲之

太上八帝玄經受經益壽

青霞子

金液還丹論

行義曰

銀屑金條中已解骨義銀本出於礦須煎煉而成故

世有術士能以朱砂而成者有鈔未而成者有焦銅而成  
者何復更有造化之氣豈可更入藥既有此類不可不區  
別其生銀即是自礦中出而特然自生者又謂之老翁  
鬚亦取像而言之耳然銀屑經言有壽生銀經言無壽釋  
者漏略不言蓋生銀已生發於外無蘊鬱之氣故無毒癩  
銀尚蘊蓄於石中鬱結之氣全不敷揚故言有壽亦惡場

饒州生銀



生銀寒無毒主熱狂驚悸發癩恍惚夜卧不安譏語神氣鬼  
祟服之明目鎮心安神定志小兒諸熱丹毒並以水磨服功



勝紫雪出饒州樂平諸坑生銀礦中狀如硬錫文理錯自

然者真子今附○臣禹錫等謹按陳藏器云生銀味辛○日華

並水磨服忌生血又云朱砂銀冷無毒畏石亭脂磁石鐵

延年益色鎮心安神止驚悸邪治中惡蠱毒心熱煎煩

憂忘虛劣忌一切血

雷公云金銀銅鐵器凡使在藥中用時即渾安置於藥

千金翼治身有赤症常以銀

抱朴子以銀但不及金王可以地仙也服之法麥漿化之亦可

凡者又非清貧道士所能得也

太清服煉靈砂法銀稟西方辛陰之神結精

寶藏論夫銀有一十七件真水銀銀白錫銀曾青銀上碌銀

丹陽銀生鐵銀生銅銀硫黃銀純霜銀帶黃銀雌黃

銀鑰石銀惟存至藥銀山澤

件是真外餘則假銀坑內石

人曰老翁漢

是正生銀也

丹房鏡源銀生洛平盧氏縣

鏡又曰自然鉛可為利術

食鉛內銀性有毒可用結

行義文具銀

靈砂味甘性溫無毒主五臟百病養神安魂魄益氣明目通

血脉止煩滿益精神殺精魅惡鬼氣久服通神明不老輕身

神仙令人心靈一名二氣砂水銀一兩硫黃六銖細研先炒

作青砂頭後入水火既濟燻抽之如束針絞者成就也惡磁

石畏鹹水亭亭話揚子度如湖滌靈砂銅錫會人語然可教好



青霞子

靈砂若草伏得住火成汁不折可療風冷用  
作母砂子墮為銀若把五金折不成汁不堪

水銀粉味辛冷無毒畏磁石石黃通大腸轉小兒疳并瘰癧

殺瘡疥癬蟲及鼻上酒皰風瘡瘙癢又名汞粉輕粉峭粉忌

一切血新補見陳藏器及日華子

圖經文具水銀條下

經驗方治小兒莫泥及膿肚膩粉一分用沙糖搜和丸  
如麻子大空心米飲下一丸良久瀉出泥土差

孫用和治虛風不一散膩粉一兩用湯煎五度如麻脚慢火  
焙乾麝香半兩細研如粉每服一次溫水調但是

風臨時服半錢或一錢  
七看虛實加減

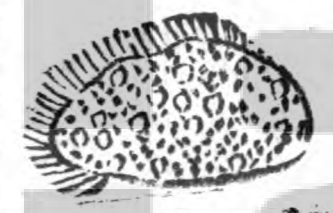
又方治血痢膿粉五錢定粉三錢同研勻用水浸蒸餅心少  
許和為丸如菜豆大每服七丸或十丸艾一散才一盞

煎湯下艾湯多亦妙

衍義曰水銀粉下延藥片小兒疳潮瘰癧多用然不可常服  
及過多多則其損兼行若魚驚則尤須審謹蓋驚

心氣不足不可下下之稟虛驚氣入心不可  
治若其人本虛便須禁此下物謹之至也

慈州磁石



磁石味辛鹹寒無毒主周痺臣禹錫等謹按蜀本注云凡  
痺隨血脈上下不能左右去者

為周痺風濕肢節中痛不可持物洗洗酸消除大熱煩滿及耳

聾養腎臟強骨氣益精除煩通關節消癰腫鼠瘦頸核喉痛

小兒驚癇煉水飲之亦令人有子一名玄石一名處石生太

山川谷及慈山山陰有鐵處則生其陽採無時紫胡為之使  
殺鐵毒惡

丹葦草是黃石脂○陶隱居云今南方亦有好者能懸吸  
針虛連三四為佳殺鐵毒消金仙經丹方黃白術中多用



之○臣禹錫等謹按蜀本注云吸鐵虛連十數針乃至一  
二斤○刀器迴轉不落○南州異物志云張海崎頭水瀾而  
多○磁石外微人乘船皆以鐵鑠鑠之至此閑以磁石不得  
過○吳氏云磁石一名磁君○藥性論云磁石臣味鹹有  
小毒能補男子腎虛風虛身強腰中不利加而用之○陳  
藏器云磁石毛子味鹹溫無毒主補絕傷益陽道止小便白  
數治腰脚去瘡瘦長飢膚令人有子宜入酒出相州北山  
磁石毛功狀珠也取鐵如母之招子焉本經有磁石不言  
毛味茸滋平治眼昏筋骨羸弱補五勞七傷除煩燥消腫  
毒小兒誤吞鐵等即細末  
筋肉莫令斷與磁石同下之

圖經曰

磁石生泰山山谷及慈山山陰有鐵處則生其陽今  
慈州徐州及海傍山中皆有之慈州者歲貢最佳  
無時其石中有孔或一二斤刀器回轉不落者尤真採  
勝謹按南州異物志云漲海崎頭水淺而多磁石微外大  
舟以鐵鑠鑠之者至此多不得過以此言之海南所出尤  
多也按磁石一名玄石而此下自玄石條云生泰山之  
陽山陰有銅銅首唯鐵者雄主療頗亦相近而寒溫銅鐵  
畏惡乃別蘇恭以爲鐵液也是磁石中無孔光澤純黑者  
其功劣於磁石又不爲鐵懸針今比蓄以磁石作禮物其塊

多光澤又吸針無力  
疑是此石醫方罕用  
雷公云石只是吸鐵不待中府石心有赤皮爲是鐵山石也  
誤服之令人有惡瘡不可療夫欲驗者一斤磁石四兩只  
吸鐵一斤者此名延年沙四面只吸得鐵八兩者號曰續  
夫石四皮一磁地榆一兩已來者號曰磁石三件並細到以  
用五石花皮碎作二磁地榆一兩已來者號曰磁石三件並  
於石上煮三日夜然後將磁石於布裏之向大石上再  
東流水細了却入乳鉢中研細如粉用之  
以水沉飛過了入乳鉢中研細如粉用之

聖惠方

治小兒誤吞磁石如棗核大

外臺秘要

和封之取磁石爲粉針自出

錢相公篋中方

許大誤吞磁石以磁石棗

鬼遺方

治金瘡以磁石末出飲入之磁石立出

沈存中筆談

磁石南石未飲入之磁石立出

卷之四十五



丹房鏡源磁石四兩之物服食上者伏丹砂養未去銅

青霞子磁石毛治

衍義曰磁石毛輕紫石上輝可吸連針鐵俗謂之香鐵石

燒赤醋焯其玄石即磁石之黑色者也多滑淨其治體大  
同小異不可不分而為二也唐針針則能特南然常偏東  
不全南也其法取新鐵中獨鐵一針芥子許蠟綴于針腰  
無風處垂之則針常指南以針錯一貫燈心浮水上亦指南  
然常偏丙位蓋丙為大庚辛  
金受其制故如是物理相感爾

石玄

玄石味鹹溫無毒主大人小兒驚痛女子絕孕小腹冷痛少

精身重服之令人有子一名玄水石一名處石生大山之陽

山陰有銅銅者雌玄者雄惡松脂相實菌桂陶隱居云本

按其一各處石既同療體又相似而寒溫銅鐵及畏惡有  
異俗方既不用之亦無識其形者不知與磁石相類否  
○唐本注云此物鐵液也但不能拾針療體如經劣於磁  
石磁石中有細孔中黃赤色初破好者能連十針一折  
鐵刀亦被迴轉其無孔光澤  
純黑者玄石也不能懸針

圖經石條下

綠益味鹹苦辛平無毒主目赤淚出膚腎眩暗○唐本注云

砂赤銅屑壞之為塊綠色真者出馬者因水中石  
下取之狀若扁青空青為眼藥之要唐本先附

圖經益條下

海藥謹按古今錄云波斯國在石上生味鹹澀主明目消腎

銅之醋造者不堪入藥色亦不久



後魏李孝伯云赤藍臭藍馬齒藍驗藍並非食藍胡藍

石水 凝州汾



石水凝州汾



凝水石味辛甘寒大寒無毒主白牙熱腹中積聚邪氣皮中如

火燒煩滿水飲之除時氣熱盛一立臍伏熱胃中熱煩滿止渴

水腫小腹痺久服不飢一名白石一名寒水石一名凌水

石色如雲母可祈者良鹽之精也生常山山谷又中水縣及

邯鄲解巴豆毒畏地榆○陶隱居云常山即恒山屬并州中

水者佳○唐本注此石有兩種有縱理橫理色清明者為

佳或云縱理為寒水石橫理為凝水石今出同州韓城色青黃理如雲母為良出豈城者斜理文色白為劣也○臣禹錫等謹按吳氏云神農本草收伯醫和扁鵲其無毒季氏大寒或生邯鄲採無時知雲母色○藥性論云寒水石能壓丹石毒風去心煩渴問解傷寒復勞

圖經曰凝水石即寒水石也生常山山谷又出中水縣及邯

其水者有橫理者為佳或曰縱理者為可祈投置水中與水同色石三月採又有一種冷油石全與此相類但投沸油鑪中油即冷者是也此石有若誤用之令腰以下不能舉

雷公云凡使先用生薑自然汁煮汁盡為度

經驗方治小兒丹毒皮膚熱赤用薑汁一盞

集驗方治風熱心燥口乾狂言渾身壯熱及中諸毒龍腦其

兩龍腦二宿取出入其草末天竺黃各二

傷寒類要治肉痺其人小使白



丹房鏡源凝水石可作油木可食

行義曰疑水石又謂之寒水石紋理通徹人或磨刻為枕以

真不可不察也陶隱居言夏月能為米者住如此則舉世不能得似乎失言

石起陽州齊



石起陽



陽起石味鹹微溫無毒主崩中漏下破子臟中血癥瘕結氣

熱腹痛無子陰痿不起補不足瘥男子莖頭寒陰下濕痒

大汗消水腫久服不飢令人有子一名白石一名石生一

起石雲母根也生齊山山谷及琅邪或雲山陽起山採

無特桑蟬蛸為之侍惡澤瀉茵桂雷九蛇蛻皮畏菟絲陶

用者乃出益州與巖石同處色小黃黑即礬石雲母根未知

死理似殷孽仍夾帶雲母滋潤者為良故本經一名白石

今有地豕服之損人黑陽起石必為惡美經言生齊山齊山

在齊州歷城西北五里採訪無陽起石陽起石乃齊山

西北六七里盧山出之本經云或雲山雲盧字訛矣今齊

山沂州惟黑者其白者獨出齊州也○臣禹錫等謹按

吳氏小寒或生太山農扁鵲酸無毒桐君雷公岐伯鹹無毒

石瑟子葵忌羊血味其平補腎氣精之腰疼膝冷濕痺能

石臣○南海藥譜陽起石惟大山所出黃者絕佳邢州鵠

傷合藥時燒後水○日華子云治帶下瘟疫冷氣補五勞七

圖經曰齊州他處不復有或云邢州鵠山亦有之然不甚好

今齊州城西惟一山石出其中彼人謂之陽起山其山

常有溫暖氣雖盛冬大雪編境獨此山無積雪蓋石氣熏



蒸使然也山惟一穴官中常禁閉至初冬則州發丁夫遣  
人監取之歲月積久其穴益深鑿他石得之甚艱以  
色白而理瑩明若狼牙者為上亦有他石作鬼者不堪  
每歲亦擇上供之餘州中貨之不爾市費無由得也貨者  
雖多而精好者亦難得舊說是雲母報其中猶挾帶雲母  
今不復見此色古服食方不見用者今補下藥多使之無

特無

丹房鏡源陽起石可

青霞子陽起治疾

衍義曰陽起石如狼牙者佳其外色不白如薑石其大塊者亦內白治男子婦人下部虛冷腎氣乏絕子臟久寒

須水飛研用凡石藥冷熱皆有毒正宜斟酌

孔公孽味辛温無毒主傷食不化邪結氣惡瘡疽瘦痔利九

竅下乳汁男子陰瘡女子陰蝕及傷食病常欲眠睡一名通

石殷孽根也青黃色生梁山山谷木蘭為之使惡細辛○陶隱居云梁山屬馮翊郡此

即今鍾乳牀也亦出始興皆大塊打破之凡鍾乳之類三  
種同一體從石室上汁溜積久盤結者為鍾乳牀即此孔  
公孽也其次以小巖穴者為鍾乳雖同者為殷孽今人為  
復溜輕好者為九散人皆搗末酒漬飲之甚療脚弱其前諸  
二孽不堪為湯也按今三種同根而所生各處當是隨其  
土地為勝爾唐本草注云此孽於鍾乳如牛羊角者中  
尚孔通故名通石本經誤以此孽為殷孽之根陶依本經以為  
今人之誤其實是也○臣禹錫等謹按蜀本云凡鍾乳之  
類有五種一鍾乳二殷孽三孔公孽四石林五石花雖同  
一體而主療有異此二孽止可酒浸不堪入丸散藥用然  
甚療脚弱氣石花石林頭在後條○吳氏云孔公孽神  
農辛味伯鹹氣石花酸無毒色青黃○藥性論云孔公孽忌  
羊血味甘有小毒主治腰冷膝痺毒風男女陰蝕瘡治人  
常欲多睡能使其喉聲圓亮○日華子云  
孔公孽味甘其暖治瘰結此即殷孽林也

山經文具石鍾乳條下

青霞子充乳

殷孽味辛温無毒主爛傷瘀血洩痢寒熱鼠瘦癥瘕結氣脚



冷疼弱一名薑石鍾乳根也生趙國山谷又梁山及南海採

無時惡防已畏木○陶隱居云趙國屬冀州此即今人所呼

乃注云此即石堂下孔公尊根也盤結如薑故名薑石俗人

治筋骨并痔之要

圖經乳文具石鍾

廣州蜜陀僧



荒僧味鹹辛重

有小毒主久痢五痔金瘡面上癩酃面膏

用之○唐本注

云形似黃龍嶺而堅重亦有白色者作聖

至禹錫等謹按蜀本注云五痔謂牡痔酒痔腸痔血痔氣

圖經曰蜜陀僧本經不載所出州上注云出波斯國今嶺南

相雜先以鈔同煎煉便隨鈔出又採山木葉燒灰開地作

灰下銀住灰上置火候冷出銀其灰池感鈔銀氣置之積

齒而聖

雷公云時呼蜜陀僧凡使搗令細於菴搗中安置了用重紙

火煮一伏時足去柳

聖惠方治野點方用蜜陀僧二兩

又方赤白痢所下不多過數不減用蜜陀僧三兩燒

外臺秘要乳煎塗面上光方以蜜陀僧用



譚氏小兒方 療豆瘡癩面... 別說云 今考市中所貨乃... 者尚有小瓶形狀銀治所出最良而罕有貨者外國

衍義曰 密陀僧堅重 破如金色者佳

鐵精平微温主明目化銅療驚悸定心氣小兒風癩陰瘡脫

肝鋼鐵是雜煉生錄作刀鑷者鐵精出銀窰中如塵紫色... 復謂何等落是鐵皮滋液黑於餘鐵陶謂可以染皂云是

魚蛇犬虎狼毒惡蟲等... 之少當乾便以竹木... 是也又云殺蟲立効又云... 染白為皂及和沒實子... 鐵粉中亦別須之針是

圖經 條文具鐵

聖惠方 陰服鐵精羊脂二味攪令

又方 無常用爐中鐵精細研搗雞肝和為丸如梧桐子大任



食前後酒

百一方產後陰下脫鐵

又方蛇骨刺人毒痛以鐵精

子母秘錄精粉陰腫鐵

姚和衆治小兒因刺肚門

太清服煉靈砂法云鐵性堅

鐵漿鐵法中陶為鐵落是鐵漿蘇云非也按鐵漿取諸鐵於

器中以水浸之經久色青法以出即堪染皂蕪解諸毒入腹服

之亦鎮心主癩癩發熱急狂走六畜癩狂人為蛇犬虎狼毒

刺惡蟲等啣服之毒不入心見陳

圖經文具鐵

外臺秘要療漆瘡以鐵漿洗之

梅師方治時氣病骨中熱生瘰

秤錘上賊風止產後血瘕腹痛及喉痺熱塞並燒令赤投酒

中及熱飲之時人呼而瘕為兒枕產後即起痛不可忍無錘

用斧今附○臣禹錫筆小謹按陳藏器云秤錘味辛溫無毒○

器云鐵杵無毒主尿中人橫產無杵用斧並燒令赤投酒中

飲之自然順生杵搗何藥者是也又云故錐無毒主誤吞竹

不入喉咽山入不但行者燒令赤漬酒中及熟飲並得○日

圖經文具鐵

聖惠方治婦人血瘕痛用古秤錘或大斧或鐵杵

外臺秘要赤內酒中沸定出飲之



千金方 婦人血燒令赤投酒中服

治胎衣不出燒鐵片

鐵華粉味鹹平無毒主安心神堅骨髓強志力除風邪養血

氣延年變白去百病隨所冷熱合和諸藥用棗膏為丸作鐵

華粉法取鋼煨作葉如笏或團平面磨錯令光淨以鹽水灑

之於醋甕中陰處埋之一百日鐵上生鐵華成矣刮取更

細擣篩入乳鉢研如麪和合諸藥為丸散此鐵之精華功用

強於鐵粉也今附○片禹錫等謹按日華子云鐵微粉止驚

氣心痛疾癰結脫肛痔瘻宿食等及傅竹木刺其所造

之法與華粉同惟懸於清甕上就潤地及刮取霜時研淘

去蘆汁鹹末烘乾

圖經 條文具鐵下

經驗後方 治心虛風邪精神恍惚健忘以此經使鐸鐵四斤於

如碁子大以水二斗浸經二

七日每於食後服一小盞

生鐵



生鐵微寒主療下部及脫肛○臣禹錫等謹按日華子云生

治痲疾鎮心安五臟能黑髮髮治癰及惡瘡疥

圖經 條文具鐵下

千金方 治耳聾燒鐵令赤投酒中飲之仍以

肘後方 治熱虎所傷毒痛煮

生鐵令有味以洗之



又方若被打瘀血在骨節及腦外不去

焦驗方治脫肛歷年不愈以生鐵二斤水一斗煮取五升出鐵以汁洗之日再

子母秘錄治小兒卒得燥瘡一名爛瘡燒鐵淬水

鐵粉味鹹平無毒工安心神堅骨髓除百病變白潤肌膚令

人不老體健能食八服令人身重肥黑合和諸藥各有所主

其造作粉飛煉有古文多不載人多取雜鐵作屑飛之令體

重真鋼則不爾其針砂市入錯錄鐵為屑和砂飛為粉買之

飛煉家亦莫辨也取鋼鐵為粉勝之今附

圖經文具鐵條

鐵落味辛甘平無毒主風熱惡瘡湯疽瘡痂疥氣在皮膚中

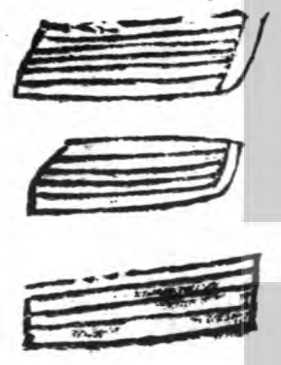
除胃膈中熱氣畏不下止煩去黑子一名鐵液可以染皂生

牧羊平澤及枋城或析城採無時○臣禹錫等謹按日華子鐵液治心驚邪一切毒

蛇蟲及蠶漆咬瘡腸風痔瘻脫肛時疾熱狂并染鬚髮今注解在鐵精條

圖經文具鐵條

鐵 鋼



鋼鐵味甘無毒千金瘡煩滿熱中胃膈氣塞食不化一名跳

鐵今注解在鐵精條

圖經文具鐵條



鐵柔

鐵上堅肌耐痛○臣禹錫等謹按詳定本草云作熟鐵○日

石亭脂毒今注

圖經曰鐵本所出經云鐵落出牧羊平澤及初城或折城諸鐵不

有之鐵落者煨家燒鐵赤沸碎上打落細皮屑俗平為鐵

花是也初煉去礦用以鑄鑄器物者為生柔相雜和用以作

以作鏢者為鑄鐵亦謂之熟鐵以生柔紫色而輕虛可以鑿

磨銅器者為鐵精作針家磨鑲細末謂之針砂取諸鐵於

器中水浸之經久色青沫出可以取之為鐵華粉入火飛煉

者為鐵粉作鐵華粉自有法文多不載諸鐵無正入火飛煉

者惟莫汁用之昔燒以碎酒用之刀斧刃磨水作藥使並

俗用有効故載之即是以生鐵漬水服餌者日取飲旋入新

別說云謹按鐵漿其酸若臭此可近况為服食也

石腦味甘温無毒主風寒虛損腰脚疼痺安五臟益氣一名

石髓餅生名山土石中採無時○陶隱居云此石亦鍾乳之

易破今茅山東○西平山並有鑿土龕取之俗方不見用

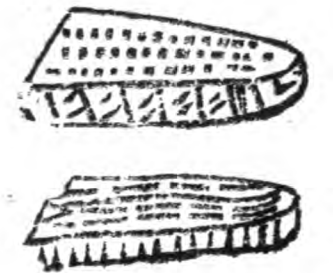
損而得長生○本注云隋時有化公者所服亦名石髓

出徐州宋里山○初在欄石中入土一丈已下得之

卵或如素許獨著即散如麵黃白色土人羆為之

接蜀本云今據下○雪譽石主瘰與此不同蘇長引雪譽石注為之

圖經乳條下





理石味辛其寒大寒無毒主身熱利胃解煩益精明目破積

聚去三蟲除榮衛中去來大熱結熱解煩燥止消渴及中風

瘰癧一名立制石一名肌石如石膏順理而細生漢中山谷

及廬山採無時滑石為之使惡麻黃陶隱居云漢中為梁

須亦呼為長理石廬山屬青州今出學州俗用亦稀仙經時

亂類○唐本注云此石膽一名立制今此石脈打用之或在土

中重疊而生皮黃赤肉白作針理文全不似石膏漢中人

取酒漬服之療癰令人肥悅市人或刮削去皮以代寒水

石并以此物見出襄州西沱水側也

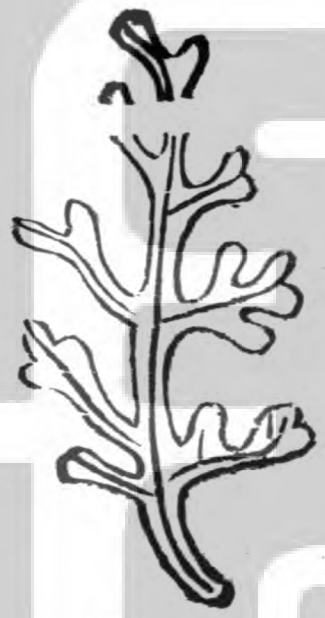
亦無此物見出襄州西沱水側也

圖經石條下

丹房鏡源可食理石

衍義曰非理石如長石但理石如石膏順理而細其

廣州珊瑚



珊瑚味其平無毒主宿血去目中翳鼻衄末吹鼻中生南海

○唐本注云似玉紅潤中多有孔亦有無孔者又從波斯

國及師子國來唐本先附○臣禹錫等謹按日華子云莫

明目止驚

圖經曰亦有生南海注云又從波斯國及師子國來今廣州

有無孔者枝柯多者更難得株無時謹按海中經曰取亦

葉因絞網出之皆推折在網中故難得完好者不知今之

取者果爾否漢積翠池中有珊瑚高一丈二尺者一本三行

晉石崇家有珊瑚高三尺今並不聞有此高大者



陳藏器云珊瑚生石巖下刺刻之汁流如血以金投之  
 海藥按晉列傳云石崇金谷園珊瑚樹皮如苑生藥味其  
 錢相公篋中方宜治七八歲小兒眼疾按其主治與金相似也  
 立愈

異物志云出波斯國為人所貴之寶也

衍義曰珊瑚治醫目今人用為點眼筋有一等細油色有紅  
 油色者嘗見一本高尺許兩枝亦一異也波斯國海中其類  
 則交合連理仍紅闊有縱紋亦一異也波斯國海中有珊瑚  
 一歲而黃三歲大船墮鐵網水底珊瑚所生磐石上白如菌  
 時不絞而出之失  
 時不絞而出之失

南恩州石蠟



石蠟味鹹寒無毒主青盲日淫虫眉瞽及丁腎漆瘡生南海又

云是尋常蠟爾年月深久水沫扣扣著因化成石每遇海潮即

飄出又一般入洞穴年深者亦壯壯皆細研水飛過入諸藥相

佐用之點目良今附○臣禹錫集謹按日華子云石蠟涼解

天行熱疾並熱水磨服也又二一浮

圖經曰石蠟出南海今嶺南近海州郡皆有之體質石也

每海潮風輒出或云是海蠟多入洞穴年深者亦壯壯皆細研水飛過入諸藥相

深者亦然然磨得人所得又金石毒採無時



行義曰此石蟹直是今之生蟹更無異處但有光與鹿石相着  
 水飛又云淨石水飛治目中醫今皮作家用之磨皮土垢  
 無出此石蟹中云淨石平無毒止渴治淋殺野獸毒  
 條合於人

**潞州長石**



長石味辛苦寒無毒主身熱胃中結氣四肢寒厥利小便通  
 血脉明目去醫眇下三蟲殺蠱毒止消渴下氣除脇肋肺間  
 邪氣交服不飢一名方石一名土石一名直石理如馬齒方  
 而閨澤玉色生長子山谷及泰山臨淄採無時長子陶隱居云

黨臨淄縣屬青州俗方及仙經並無用此者○唐本注云  
 此石狀同石膏而厚大縱理而長文似馬齒今均州遠坂  
 山有之土人以爲  
 聖石者是長石也

圖經曰長石生山谷及泰山臨淄今惟潞州有之文如

長爲別耳採無時謹按本經理石長石二物二條其味與  
 功効亦別又云理石如石膏順理而細○陶隱居云理石  
 亦等爲長理石蘇恭云理石皮黃赤肉白作料理不似石  
 膏市人制去皮以代寒水石并當譽石今靈寶丹用長石  
 石爲一物醫家相承用者乃似石膏與今潞州所出長石  
 無異而諸郡無復出理石醫方亦不見單用往往呼長石  
 有帶黃赤皮者不知果是理石否

馬銜無毒主難產小兒癩產婦臨產時手持之亦煮汁服一

蓋此馬勒口鐵也本經馬條注中已略言之今附○臣禹錫

產通用藥云馬銜平○日華子云古舊銜者好或作醫工  
 針也○今按本經馬條注中無說馬銜之事不知此經  
 所言何謂今  
 如存之云



聖惠方治馬喉痺喉中深腫連頰性熱吐氣數者用  
馬街一具水三盞煎取一盞半分為三服

礪石無毒主破宿血下石淋除癥結伏鬼物惡氣一名磨石

燒赤熱投酒中飲之即今磨刀石取堊傳蠟蝮溺瘡有效又

不欲人蹋之令人忠帶下未知所由又有越砥石極細磨汁

滴目除障闇燒赤投酒中破血癥痛功狀極同名又相近應

是礪矣禹貢注云砥細於礪皆磨石也新補見陳藏器

石花味甘溫無毒酒漬服主腰脚風冷與殷孽同一名乳花

唐本注云二月九日採之乳水滴水上散如雪霜者出

乳文具石鐘乳條下

衍義曰

石花也分岐如鹿角上有細文起以指擦之錚錚然有聲此  
石花也多生海中石上世方難得家中自有一本後又於  
大相國宮中見一本然其體甚脆不禁觸擊本條亦注皆

是非

信陽軍桃花石



桃花石味甘溫無毒主大腸中冷膿血痢久服令人肌熱能

食唐本注云出申州鍾山縣似赤石脂但舐之不著舌者

為真唐本先附○臣禹錫等謹按蜀本云令人肥悅能食

圖經曰信州亦有之形塊似赤石脂紫石英出申州鍾山縣今

桃花其潤目光而重日之可愛是也



光潤而體重以砥之不著舌者為佳採無時陶隱居鮮赤  
石脂云用義陽者狀如純腦色鮮紅可愛蘇恭以為非是  
即挑花石也久服肥人土人亦  
以療痢然則功用亦不相遠矣

衍義曰桃花石有赤白兩等有赤地淡白點如桃花片者人往往講磨為器用  
今人亦罕服食

光明鹽味鹹甘平無毒主頭面諸風目赤痛多眵淚生鹽州

五原鹽池下鑿取之六者如升皆正方光徹一名石鹽唐本附

○臣禹錫等謹按蜀本注云亦呼為聖石

圖經文其食

石牀味甘温無毒酒漬服與股孽同一名乳牀一名逆石唐

本注云陶謂孔公孽即乳牀非也二孽在上牀花在下性體雖同上下有別孽乳水不凝積生如笋狀津長久與上等乳相接為柱也出鍾乳堂中採無時唐本先附○臣禹錫等謹按日華子云石筒即是石乳下凝滴長者與石花力

圖經文具石鍾

膚青味辛鹹平無毒主蠱毒及蛇菜肉諸毒惡瘡不可久服

令人瘦一名推青一名推石生益州川谷○尚隱居云俗方及山經並無用此

者亦相與不復識

馬腦味辛寒無毒主辟惡熨目赤爛紅色似馬腦亦美石之

類重寶也生西國玉石間來中國者皆以為器亦云馬腦珠

是馬口中吐出多是胡人謬言以貴之耳新補見陳藏器

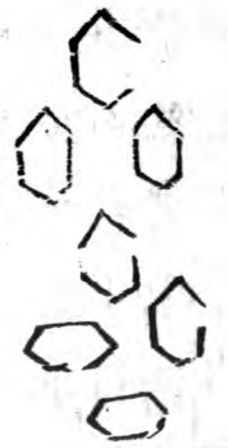
陳藏器馬腦出日本國用研木不熱為上研木熱非真也

衍義曰馬腦非石非玉自是一類有紅白黑色三種亦有其

之物大者如縷絲者出西齊者佳彼土人以小者為好既重之佛經多言之其馬口中吐出既知謬言不合編入



精玄陰太州解



精益州解



太陰玄精味鹹溫無毒主除風冷邪氣濕痺益精氣婦人瘕冷漏下心腹積聚冷氣止頭疼解肌其色青白龜背者良出

解縣附今

圖經曰太陰玄精山西解縣今解池及通秦州積益倉中亦有

其色青白龜背者良出... 除風冷無毒又... 世補藥及治傷寒... 四肢不利正陽丹... 四物都細研入藥... 煨之約近半日候

拌今勻濕入... 以艾湯研下... 以衣蓋汗出為差

唐本餘青近地亦有赤

沈存中云生陰精石

衍義曰太陰玄精石合他藥... 汗不止或時狂言四肢逆冷咽喉不利腹疼亦須

車轄無毒主喉痺及喉中熱塞燒令赤投酒中及熱飲之

圖經文具錢

聖惠方燒令赤投酒中候冷飲之

外臺秘要治小兒大便失血中服之



南恩州石蛇



圖經曰

石蛇出南海水傍山石一團其形盤屈如蛇也無首尾

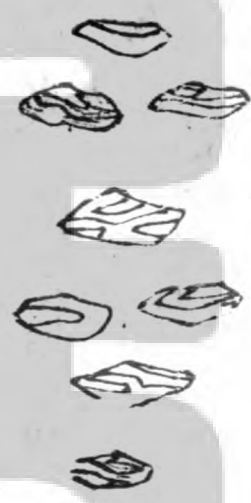
內空紅紫色只似車螺一個知何物所化大抵與石

行義曰

石蛇本經不收始自開寶本本草添附其色如古贗上

盤者良採無味鹹性平無毒以

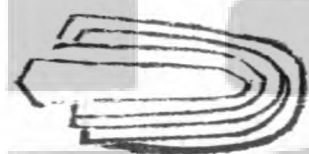
黑州羊石



圖經曰

黑羊石生兗州宮山之西味淡性熱解毒

兗州白羊石



圖經曰

白羊石生兗州白羊山味淡其性熱用即大熟生

一種唐本餘

銀膏味辛大寒主熱風心虛驚癇恍惚狂走膈上熱頭面熱

風衝心上下安神定志鎮心明目利水道治人心風健忘其

法以白錫和銀薄及水銀合成之亦甚補牙齒缺落又當凝

硬如銀合煉有法



四十種陳藏器餘

天子藉田三推犁下土無毒主驚悸癩邪安神定魄強志入  
官不惧利見大官宜婚市王者所封五色土亦其次焉已前  
主病正爾水服餘皆藏寶

社稷四角土牧宰臨官自取以塗門戶主盜不入境今郡縣  
皆有社壇也

土地主歛萬物毒人患發背者掘地為孔一頭傍通取風以  
穴大小可腫處仰卧穴上令癰入穴孔中喻之作三三箇覺  
熱即易仍以物藉他處又人卒患急黃熱盛欲死者於砂土  
中掘坎斜埋患人令頭出土上灌之乂乃出曾試有效當是  
土能收攝熱也又人患丹石發腫以腫處於濕地上卧熨之

地熱易之

市門土無毒主婦人易產取土臨月帶之又臨月產時取一  
錢七末酒服之又捻為丸小兒於苦瓠中作白龍乞兒此法  
崔知悌方文多不錄

自然灰主白癩風癰瘍重淋取汁和醋先以布揩白癩風破  
傅之當為瘡勿怪能軟瑠璃玉石如泥至易雕刻及澣衣令  
白洗惡瘡疥癬驗於諸灰生海中如黃土南中異物志云自  
然灰生南海畔可澣衣石得此灰即爛可為哭器今馬腦等形  
質異者先以此灰埋之令軟然後雕刻之也

鑄鍾黃土無毒主卒心痛症忤惡氣置酒中溫服之弭佳也  
戶垠下土無毒主產後腹痛末一錢七酒中熱服之戶者門



之别名也新注云和雄雀糞煖酒服方寸匕治吹竈効  
鑄鐻鈕孔中黄土主丈夫陰囊濕癢細末摸之亦去陰汗最  
佳

竈墻中裏白灰主遊腫醋磨傳之竈器物初燒時相隔皆以  
灰爲泥然後燒之墻竈也但看裏有即收之

彈丸土無毒主難產末一錢匕熱酒調服之大有効也

執日取天星上土和柏葉董草以塗門戶方一尺盜賊不來  
抱朴子亦云有之

大甌中蒸土一兩碩熱坐卧其上取病處熱徹汗徧身仍隨  
疾服藥和鼠壤用亦得

蚘鼠壤堆上土苦酒和爲泥傳腫極効又云鬼疰氣痛取土  
以秫米其汁搜作餅以燒令熱以物裹熨痛處凡蚘鼠是野田

中尖紫鼠也

塚上土及磚石主痼瘕瘕五月一日取之瓦器中盛埋之著門

外墻下合家不患疰氣又正月朝早將物去塚頭取古磚一  
口將呪要斷一年無時疫懸安大門也

桑根下土搜成泥能別傳風腫上仍灸三二十壯取熱通瘡中

又人中惡風水肉腫上一箇差以土坭灸二百壯當下黃水即  
差也

春牛角上土收置云人上令人宜田

土蜂窠上細土主腫毒醋和爲泥傳之亦主蜘蛛咬土蜂者  
在地土中作窠者見天



載鹽車牛角上土主惡瘡黃汁出不差漸胤者取土封之即止牛角謂是車邊脂角也好用

驢溺泥土主蜘蛛咬先用醋泔汁洗瘡然後泥傅之黑驢耳佳乳汁洗之更好

故鞋底下肌土人適他方不伏水土刮取末和水服之不伏水土與諸病有異即其伏也

鼠壤土主中風筋骨不隨冷痺骨節疼手足拘急風掣痛偏枯死肌多收取暴乾用之

屋內墻下蟲塵土治惡瘡又不差乾傅之亦消調塗之

鬼屎主人馬反花瘡刮取和油塗之生陰濕地如屎亦如地錢黃白色

床頭塵土主人耳上月割瘡和油塗之効也

牀四脚下土主狗咬人和成泥傅瘡上灸之一七壯瘡中得大毛者愈狗犬狂犬也

瓦甃主魘寐不寤覆人面疾打破之覺好魘及無夢取火燒死者灰著枕中履之即止

甘草無毒主去油垢水和塗之洗臍服如灰及主草葉諸菌毒熱湯末和之出安西及東京龍門土底澄取之

一月上壬日取土泥屋四角大宜蠶也  
下土無毒主腹痛暴卒者末服方寸匕

胡鷲窠內土無毒主風痿癱瘳末以水和傅之又巢中草土卒溺血燒爲灰飲服又上惡刺瘡及浸淫瘡遍身至心者死



少用之

道中熱塵土主夏中熱暈死取土積死人心其死非爲遇熱  
亦可以麥汁灌之

正月十五日燈盞令人有子夫婦共於富家局會所盜之勿  
令人知之安卧牀下當月有子

仰天皮無毒主卒心痛中惡取人膏和作丸服之一七丸人  
膏者人垢汗也措取仰天皮反者是中庭內傳污水後乾地皮  
也取卷起者一名掬天皮亦主人馬及花瘡和油塗之佳

蟻穴中出土取七枚如粒和醋搽狐刺瘡

古磚熱燒之主下部久患白痢膿泄下以物裹上坐之入秋  
小腹多冷者亦用此古磚煮汁服之主藏氣又令患處慰之

三五度差又主婦入帶下五色俱治之取黃磚石燒令微赤  
熱以麵五味和作煎餅七箇安磚上以黃芩萋傳麵上又以  
布兩重患冷病人坐上令藥氣入腹如熏之有蟲出如蠶子  
不過三五度差

富家中庭土七月丑日取之泥竈令人富勿令人知

百舌鳥窠中土末和醎醋傳蚯蚓及諸惡蟲咬瘡

猪槽上垢及土主難產取一合和麵半升烏頭二十顆煮取  
汁服之

故茅屋上塵無毒主老嗽取多年煙火者拂取上塵和石黃  
款冬花婦人月經衣帶爲末以水和塗于茅上待乾內竹筒  
子中燒一頭以口噙之入咽喉數數咽之無不差也



諸土有毒怪曰瘖羊掘土見之不可觸已出上土部土有氣觸之令人面黃色上氣身腫掘土處謹之多斷地脉古人所忌地有仰穴令人移也

亦兩

熱心酸正

三正參差文王

重修政和經史證類備用本草卷第五

增訂西義

成都唐慎微續證類

中衛大夫康州防禦使修健明堂所醫藥提舉入內醫官

編類聖濟經提舉大醫學臣曹孝忠奉敕校勘

玉石部下品總九十三種銅錫瓦蓋水

十一種神農本草經國內

十一種名醫別錄

十種唐本先附唐附

八種今附昔醫家常用有

十一種新補

五種新定



一種唐慎微續補

三十五種陳藏器餘

伏龍肝

石灰

續注 百草霜

礬石

砒霜 今附砒 黃續注

鑄墨

附今

硃砂

附唐

鉛丹

鉛粉

粉錫

東壁土

好土 土硝土 續注

赤銅屑

唐器 續注

錫銅

鏡鼻

古鑑 續注

銅青

補新

井底砂

唐慎 補

代赭

附赤土

石鸞

附唐

戎鹽

續注 鹽藥

大盜

鹵鹹

漿水

新補水 漿附

井華水

補新

菊花水

補新

地漿

白草 部移

臘雪

補新

泉水

補新

半天河

白草 部移

熱湯

新補 續注 附

白堊

烏格切 白土

冬灰

青瑯玕

續注 玻璃

自然銅

今附 銻石

金牙

銅礦石

附唐

銅弩牙

金星石

新定 星石 附銀

特生礬灰

握雪巖石

梁上塵

附唐

土陰孽

車脂

缸工

中膏 附今

鍛窰灰

窰突 墨窰 續注

淋石

方解石

礬石

附新

薑石

唐附 鹿黃石 參附 石中 圓石 等附

井泉石

附新

蒼石

花乳石

附新

石蠶

附今

石腦油

附新

白瓷瓦屑

附唐

烏古瓦

附唐

不灰木

附今

蓬砂

附新

鉛霜

附新

古文錢

附新

蛇黃

元在 蟲部 今移 唐附



三十五種陳藏器餘

玉井水

碧海水

千里水

秋露水

甘露水

繁露水

六天氣

梅雨水

醴泉

甘露蜜

冬霜

電

温湯

夏冰

諸方水

乳穴中水

水花

赤龍浴水

糧嬰中水

甌氣水

好井水

正月雨水

主熱湯

屋漏水

三家洗梳水

蟹膏月投漆中化為水

猪槽中水

市門衆人溺坑中水

鹽膽水

水氣

塚井中水

陰地流泉

銅器蓋食器上汗

炊湯

諸水有毒

伏龍肝味辛微温主婦人崩中吐血止欬逆止血消癰腫毒

氣○陶隱居云此竈中對釜月下黄土也取擣篩合葫奎癰甚効以竈有神故號為伏龍肝并以迂隱其名爾今人用

廣州鹽城有以療病血瘀血亦是近耳之也兼得火燒之義也○臣禹錫等謹按藥性論云伏龍肝單用亦可味鹹

無毒末與醋調塗癰腫○蕭炳云釜月中墨一名釜臍下墨○陳藏器云竈中土及四交道土合末以飲兒碎夜啼

○日華子云伏龍肝熱微毒治鼻洪腸風帶下血崩泄精尿白催生下胞及小兒夜啼

圖經文具石

雷公云凡使勿誤用竈下土其伏龍肝是十年已來竈額內

研以滑石水飛過兩遍令乾用熟絹裏却取子時安於舊額內一伏時重晒了用

聖惠方治小兒疳積

差用伏龍肝傳之



外臺秘要救急治心痛冷熱伏龍肝末以酒服

又方治癰腫伏龍肝末以酒服

千金方治風癰者卒不能語口禁手足不隨而強直方伏

又方治諸膿臭伏龍肝末以酒服

又方治龍肝末吹鼻中

又方治中風心煩恍惚或腹中痛滿或時絕而復甦者取

得者強開以筒灌之使

又方發背欲死方伏龍肝末以酒調厚

又方小兒卒重舌金下

方灸瘡痛腫急痔瘻中黃正

金翼伏龍肝方寸七日以水服

肘後方治諸癰疽發背及乳房金下土

簡要濟眾治小兒丹毒從臍中起方伏龍肝是年深竅下黃

差為度用新汲水調亦得

廣利方新汲水血鼻劍不止伏龍肝半升以

傷寒類要龍肝熱病方以水調伏

又方姪娘遭時疫熱病令子不墮竅下土

十全博救方治子死腹中其母氣欲絕不出方伏龍肝三

午毋秘錄小兒赤遊行於身上至心即死

又方小兒尿灰澆伏龍

產寶相得內於臍中續取其草湯三四合服之出

賈相公二進過牛經牛養血者取竅中黃土



楊氏產乳未和時行令胎不損伏龍肝

丹房鏡源云伏龍肝或經十年者竈下掘深一尺下真

衍義曰伏龍肝未婦人血露蠶砂一兩炒伏龍肝半兩阿膠一

亦有東壁土陳藏器云取其東壁立久乾也今詳之南壁土

陽真火故乾也何不取蓋東壁常先得曉日烘炙日者太

初出東壁土者何也火生之時其氣壯故素問云少火之

氣壯及其當午之時則此火之精氣衰故不取實問云少火之

曰何以知其日者太陽真火以水精珠或心亞銅鑑向日射

石 灰



石灰味辛溫主疽瘍疥瘡熱氣惡瘡癩疾死肌墮眉殺痔蟲

去黑子息肉療髓骨疽一名惡灰一名希灰生中山川谷

隱居云中山屬代郡今近山生石青白色作竈燒竟以水

沃之即熱蒸而解未矣性至烈人多以構塚用捍水而辟蟲

疥瘡金瘡中水洗諸瘡皆即差○唐本注云別錄及今人用

藥金瘡止血大效若五月五日採繁蔓葛葉鹿活草柵葉

末以療瘡生肌大神驗○今按別本注云燒青石為灰也

有兩種風化水化風化為勝○臣禹錫等謹按蜀本云有

毒墮胎○藥性論云石灰治癩疥蝕惡肉不入湯服止金

瘡血和雞子自敗船茹甚良○日華子云味耳無毒生肌

長肉止血并主白癩瘡後陰不能合濃煎汁熏洗解酒味

酸倍勝不壞灰又名煅石  
經曰石灰生中山川谷今所在近山處皆有之此燒青石  
石置風中自解此為有力水化者以水沃之則熱蒸而解  
力差劣古方多用合百草團末治金瘡殊勝今醫家或以



臘月黃牛膽取汁搜和却內膽中挂之當風百日研之更

洗草葉者又敗船茹灰刮取用亦同又冬灰多雜薪蒸乃不

善惟桑新灰純者入藥絕奇古方以諸灰雜石灰熬煎以

點疣痣黑子等丹竈亦用之又燬鐵竈中灰主堅積古方

百草霜並主消積滯今人下食藥中多用之竈類上墨名

雷公云凡使用醋浸一宿澆出待乾下火煨令腥穢氣

聖惠方治蝮蝎咬人用石醋和塗之

又方治大腸久積虛冷每因大便脫肛按不得入

外臺秘要元希聲侍郎治卒發疹秘驗方石灰

千金方以絹袋貯使好酒氣相接

又方治瘰癧取古冢中石灰傳厚調塗之

肘後方治瘰癧後陰道開不閉石灰一斗熬之以水

又方治湯火灼瘡石灰細末入水中坐須臾更作

又方治金刃所傷急以石灰裹之既止痛又速愈無石

經驗方治蝨蟻蟲咬其形如大風眉

梅師方治產後陰腫下脫腸出玉門不開取石灰一斗煖洗

又方治金瘡止血速差方炒石灰和雞子白和丸

孫用和治誤吞金銀或錢在腹內不下方石灰一杏核大

孫真人食忌灰汁洗之

又方去靨子取石灰炭上熬令熱搗搗

斗門方治刀斧傷用石佳



又方治中風口面... 治右邊塗之向左即

崔氏水治血痢十年方石... 治左邊塗之向大妙

抱朴子內篇清古大墓中多石... 治諸病者聞之急往

新唐書李百藥傳百藥勸杜伏威... 治既至歷陽中海欵

丹房鏡源云制雄黃制細砂可... 治好糯米粒全者半置灰中

行義曰石灰水調一盞如稠粥... 治動置少許如不精者

上經半及紋刺先微微以針頭... 治不用且不得着水

愈又取新硬石灰一合以醋炒... 治處塗之立便愈

牽口胃針人口唇上不患處一... 治處塗之立便愈

石礬州階



石礬州路



礬石味辛甘大熱生溫熱有毒主寒熱鼠瘦蝕瘡死肌風

痺腸中堅癖邪氣除熱明目下氣除膈中熱止消渴益肝氣

破積聚癩冷腹痛去鼻中息肉久服令人筋孿火煉百日服

一刀圭不煉服則殺人及百獸一名青分石一名立制石二

名固羊石一名白礬石一名太白石一名澤乳一名食鹽生

漢中山谷及少室採無時得火良林針為之使惡馬目毒公

今蜀漢亦有而好者出南康南野溪及彭城界中洛陽城

南溼常取少室生礬石內水中冷水不冰如則生亦大



熱今以黃土泥包炭火燒之一日一夕則解碎可用療冷  
結為良丹方及黃白術多思之此日又相與新寧及零陵皆  
有白礬石能柔金○唐本注云此石能相火久燒但解散  
不可奪其堅今市人乃取潔白細理石當之燒即為灰非  
也此藥攻擊積聚冷病為良若以餘物代之療病無  
效正為此也今漢川武當西遼及名礬石谷此即其真  
出處少室亦有粒細理不如此漢中者也○臣禹錫等謹按  
吳氏云白礬石一名鼠屎與或生少室十二月採○山海  
經云阜塗之山有白石焉名曰礬石可以毒隄郭注云今礬  
石若鼠屎食而肥也○說文解字云礬石也○博物志  
云礬石為真也○礬石性論云礬石使鈎丹為之使味其有  
小毒主除骨痛○礬石性論云礬石使鈎丹為之使味其有  
血○礬石性論云礬石使鈎丹為之使味其有  
云不入湯

圖經曰礬石生漢中一谷及少室今潞州亦有焉性大熱置

不奪其堅市人多用之須真者乃佳又有特生礬石生  
積聚痼冷之病為礬石之用之須真者乃佳又有特生礬石生  
西域張華博物志云礬石一名蒼礬石而深州特生亦有青  
方術家用之取礬石中者為真即此特生礬石也然此色

難得人多便漢中者外形紫赤內白如霜中夾有白形狀  
如齒其塊小於白礬石而肌粒大數倍乃如小豆許白礬  
石粒細才若粟米耳又有捏雪礬石出徐州西宋望山八  
上夾餘生於礬石間色白細軟如麩也又下條蒼石生  
西域蘇水云特生礬石一名蒼礬石而深州特生亦有青  
者房陵漢川與白礬石同處亦有青色者多與特生同但  
不入方用而今醫家多以用礬石即白礬石也形類相近  
如此尤宜詳擇之耳古方治寒冷積聚皆用礬石胡洽大  
露宿在子二兩六物搗篩蜜丸服如梧子五丸日三漸增以  
知為度又有心腹堅實皆用礬石近世乃少用者  
飲食不下

丹房鏡源云伏丹砂養求

行義曰礬石并特生礬石博物志及陶隱居皆言此二石礬

特生則止是前白礬石今補注但隨文解義不見特生之  
意蓋二條是前一物也今特生不特生為異耳所謂特生之  
者不附著他石為特耳今用者少惟兩字與石入藥然  
極須慎用其毒至甚及至論為礬石中者又却從謬說礬  
中皆無此石乃曰礬石常入水冷換取以塞外如此則礬  
鴈驚之類皆食於水亦自繁息生他復不用此二石其說



往往取俗士之言未嘗察其真而窮其理也嘗官於嶺南  
軍親檢鶴巢中無不矧與不矧皆得處處有之然治以積及  
久病曾腹冷有功直須  
慎用蓋其毒不可嘗

**信州砥霜**



砥霜味苦酸有毒主諸瘧風痰在胃膈可作吐藥不可久服

能傷人飛煉砥黃而成法也作別有法今附○臣禹錫等謹按

人血氣衝心痛落胎... 砥黃暖亦有毒畏菜豆冷水

經曰者佳其塊甚有... 出郡縣今近銅山處亦有之惟信州

處自是難得食方中亦... 或兩大塊真者人競珍之市之不啻

所著片如細屑亦夾土石入藥服之為害... 龍芮二味三

雷公云件便下火煨從已至申便用其草水浸... 從申至子出

批乾却入瓶盛於火中... 收用此霜

聖惠方如菜豆大研以新汲水調下少許用... 水投大壺即

愈若未... 收用此霜

又方毒蛇屎草木着人似刺割便腫痛肉爛... 錢麝

博濟方治小兒牙宣常有鮮血不止牙齦臭... 錢麝

在少用末剪作小片紙卷... 錢麝

孫尚藥右用一信二兩別研如粉寒水石三... 兩別搗為末

以石末蓋頭然後取厚蓋蓋之周圍醋糊紙... 條子密封約

研以軟上候冷取開蓋子淨刮取砥石末一... 子一入乳鉢內細



兒服以飛過辰砂為衣候乾入瓷盒收每入服時於發日  
早膳茶清下一丸一日內不得熱物合時先掃酒一淨室  
中合之不得令人患則男着在口中男患亦然

**靈苑方** 治瘰癧用信州乾黃細研滴濃墨汁丸如梧桐子大  
破或針將藥半丸敲碎貼之少許

然或落為度覺藥盡時更貼少許  
青霞子 寶藏論云砒霜若草伏住火煨色不變移鎔成

**丹房鏡源** 云砒霜化  
別說云謹按今信州玉山有砒井官中封禁甚嚴牛不交石

火則殺人圖經所謂不啻金價者此也若今市人通貨者  
即取山中夾砂石者燒煙飛作白霜乃碎屑而芒刺其傷

火多者塊大而微黃則圖經所謂如鷲子色明徹者此也  
古方並入藥惟見燒煉丹石家用近人多以治瘡然大

意本以生者能解熱毒蓋瘡本傷暑故用今俗醫乃不究  
其理即所以損所燒霜用服之必吐下因此幸有安者遂為定

法爾後所損極多不可不慎也初取飛燒霜時人在上風  
餘丈外立下風所近草木皆死又多見和飯毒鼠若捕

犬食死鼠者亦死其毒過於  
察之又衡山所出一種力差

**行義** 曰此霜瘡家或用過齊  
其坊膏封鎖塊中有濁屎水  
謂之砒黃其色如牛肉或有

磨研之酒飲治癩積氣有功  
取砒之法將生砒置火上以  
遂疑結其大者以是下等

大塊者其大者以是下等  
用如乳其大者以是下等  
者直須詳謹

**鎔墨** 主蠱毒中惡血暈吐血以酒或水細研溫服之亦塗金

**瘡生肌** 止血瘡在面慎勿塗之黑入肉如印此鎔下墨是也

今附○臣禹錫等謹  
按蜀本云鎔墨無毒

**圖經** 文具石  
千金方 臭鼻氣壅塞下

千金方 通方水服金墨末

千金方 通方水服金墨末

千金方 通方水服金墨末

千金方 通方水服金墨末

千金方 通方水服金墨末

千金方 通方水服金墨末



又方 治古卒腫如猪胞狀 滿口不流涎

又方 治心腹痛 取鑄墨以熱

又方 治逆生以下 二錢匕

又方 治中惡心痛 欲絕 用全下墨半兩

又方 治轉筋入腸 中欲轉者

經驗方 治霍亂取百沸湯一盞 投煉其中 息攪數十下 用梳

蓋之 汗出 通口 微呷

砂 硃



硃砂味鹹苦辛温有毒不宜多服主積聚破結血爛胎止痛

丁氣療欬嗽宿冷去惡肉生好肌柔金銀可為針藥出西戎

形如牙硝光淨者良驢馬藥亦用

血氣不調腸鳴食飲不消腰脚疼冷瘕癆疾飲喉中結氣

反胃吐水令人能食肥健一飛為酸砂二飛為伏翼三飛

為定精色如鷲兒黃和諸補藥為丸服之有暴熱飛煉有

法亦能變鐵○又按別本注云胡人謂為濃砂其性大熱

今云温恐有誤也唐本先附○臣禹錫等謹按禁性論云

硃砂有大毒畏漿水忌羊血味酸鹹銷五金入石腐壞人

腸胃生食之化人心為血中者研生菜豆汁飲一二升解

之通門中有伏煉法能除冷病大益陽事○日華子云硃砂

使生不宜多服光淨者良今良切酸補水臧煖子宮冷瘕

夜宿食不消氣塊毒畏一良切酸補水臧煖子宮冷瘕

圖經曰有硃砂出西戎今西京夏國及河東陝西近邊州郡亦







過人毫器中於重湯中煮其器  
使自乾殺其毒及去其塵穢

鉛丹味辛微寒主吐逆胃反酸馬癩癩疾除熱下氣止小便利

除毒執臍攀全瘡溢血煉化還成九光久服通神明一名鉛

華生於鉛生蜀郡平澤○陶隱居云即今熬鉛所作者黃丹也

所須云化成九老者當謂錫也錫作今錫稱錫丹陶云熬鉛

俱誤矣○今注此即今黃丹也錫與粉化鉛未聞用錫者故參

之按李含光音義云黃丹即今黃丹也錫與粉化鉛未聞用錫者故參

不信黃丹及胡粉投炭中色所作為鉛抱朴子內篇云愚人乃

誤矣○臣禹錫等謹按藥性論云鉛丹君主治驚悸狂走

嘔逆消渴前膏用止痛生肌○蕭炳云臣不入湯○日華

及救傳全瘡長肉及湯火瀆染髮可煎膏

經五具鉛條下

**臺要** 集驗療逆產方真丹刀圭塗兒蹠下

**肘後方** 客忤中惡之類多於道四門外得之方真丹方寸匕

案三合和服之口

**又方** 治傷寒及時氣溫病頭痛壯熱

**又方** 盛真丹塗身令遍向火坐令汗出

**又方** 蝮蠱人黃丹

**經驗方** 碧霞丹治吐逆立效此來黃丹四兩篩過用好米醋

透紅冷取研細為末用粟米飯丸如桐子大煎藥湯下七丸不嚼只一服

**王氏博濟** 治風癩驅風散鉛丹二兩白礬二兩為末用三角

鋪子上然後用紙扭却將十斤柳木柴燒過為度取出細研每服二錢溫酒下

**劉氏** 治小兒瘡方黃丹兩錢七以蜜水

**子母秘錄** 治小兒重舌方黃丹如

**治瘡** 百草霜黃丹等分細研每服二錢愈



行義曰然經稱本謂之黃丹化鉛而成別有法唐本注炒錫則  
色黯暗鉛則明白以此  
為異治瘡及久積皆用

鉛



鉛味甘無毒鎮心安神治傷寒毒氣反胃嘔噦蛇蟻所咬炙

熨之新補見

圖經曰而鉛生蜀郡平澤錫生桂陽山谷今有銀坑處皆有之

粉也二物並是化鉛所附於錫謹按字書為錫而皆用錫雜  
雜水銀相似而五分之一合煉作片有鉛霜亦出於錫其法以青

亦謂之尤多凡精銅之物多和以錫考工記攻金之工今有  
六齊是也凡藥用銅弩牙古文錢之類皆以有錫故其用  
亦近之及鉛灰治瘰癧劉禹錫著其法云取鉛三兩鐵器  
中熬之數當有脚如黑灰取此灰和脂塗瘰癧子仍以舊  
帛貼之數去息其惡汁又貼如此半月許亦不痛不破  
不作瘡但內消之為  
水差雖流過項亦不差

陳藏器云錫及黑錫寒小毒生瘰癧鬼氣疰并錯為末和清

木香傳風瘡腫為惡毒本經雖有條皆以成丹及粉非專為

云錫為丹錫  
為粉深誤

經驗方治發背及諸般癰毒瘡黑鉛一斤甘草三兩微炙坐

如者投在酒中却出酒在傍先以甘草置在酒內然後投

勝金方烏髮髮明木日半去之只留酒內飲醉後即愈

如常措牙齒後用溫水漱口  
洗眼治諸般眼疾  
看用之皆變黑也



又方一治金石藥毒用黑鉛一斤以乾鍋中溶成汁接酒

青霞子寶藏論云黑鉛草伏得成實可點銅為銀并鑄

太清服煉靈砂法性錫鉛俱稟北方壬癸陰極之精也

丹房鏡源云錫鹹者不出銀熱是也嘉州隴州利州出

錫錫盧氏錫此處惡用時直須瀝過陰平錫出劔州是鐵之

丹色鈞花投承中以文武火養自浮面上捺刮取錫子

成汁下醋點之法鈞一州山洞溪砂中形如皂子又錫子

錫



粉錫味辛寒無毒主伏尸毒殺三蟲去鼈瘕療惡瘡墮胎

止小便利一名解錫有陶隱居云即今化錫所而謂之粉錫也其

與經云垂粉錫亦為誤矣今注按本經呼為粉錫然其實

之經云故英公序云錫莫辨者蓋謂此也○臣禹錫等

謹按藥性論云胡粉使又名定粉味其辛無毒能治積聚

不消炒焦止小兒疳積○陳藏器云胡粉本功外主久痢

成疳和水及雞子白服以糞黑為度為其殺蟲而止痢也

○日華子云光粉涼無毒治癰腫瘦爛嘔逆瘰癧瘰癧小兒疳積氣

圖經條文具錫

外臺秘要誤吞錢并金銀物以胡粉一兩搗調之分再服食

千金方治瘡中水胡粉炭灰白等

又方治諸腋臭胡粉三合以

肘後方治篤病新起早勞食飲多致復欲



又方治卒從高落一錢血搶心面青短氣

孫真人食忌羊髓和塗上封之

食醫心鏡治小兒中舌上瘡取胡粉末并

張文仲治乾濕癬一物粉臭若股內陰下常濕且臭或作瘡

又方治寸白虫瘡胡粉令速燥平旦作肉

又方小兒疳瘡胡粉熱八分得

子母秘錄小兒夜啼胡粉服水

又方小兒腹脹胡粉蓋熬色變以摩腹

又方治小兒無辜瘡赤白兼成痲胡

又方治小兒耳後月蝕以飲服之

丹房鏡源云胡粉可作小櫃

衍義曰粉錫胡粉也又名山死

東壁土主下部瘡脫月取由小壁之東邊謂常先凡九日光刮取

用之亦瘡小兒風癩又可用性平刮末細篩點日下去翳又東

論云東壁土亦可單用性平刮末細篩點日下去翳又東

溫無毒陳藏器云好土及主瘡癩○日華云去翳又東

腹內熱毒絞結痛下血取入地乾土以水煮一二沸絞去

野菌毒並解之取東壁土升用之解毒亦小同止消痰亂

三尺已下其向陽壁久乾也惡物勿令入客小已食牛糞

肉及肝中毒者先坐頭髮令寸長拌好土作膏泥二升合

和飲之須臾髮皆貫所食髮令寸長拌好土作膏泥二升合

撮取中央土和水和食馬疥絞照之良○又云畫地作五毒以

轉丸是也藏氣黃疸中病熱湯之取汁頓服之毒無毒



也蟾食百蟲  
故特主惡瘡

圖經文具石

外臺秘要治凡門頭出故屋東壁土一升研皂莢三挺長一尺二寸壁土把粉凡門頭出處皂莢炙煖更進煖

差之

肘後方服藥過劑及中毒煩悶欲死

經驗方治背癰癰以水三升調飲之  
用生薑汁拌成膏攤貼之更以茅香湯調下錢七

服妙也

子母秘錄治小兒腐風瘡歷年

行義東壁土文具  
伏龍肝條下

赤銅屑以醋和如麥飯袋盛先刺腋下脉去血封之攻腋臭神

効人熬使極熱投酒中服五合日三主賊風反折又燒赤

五斤內酒二斗中百徧服同前主賊風甚驗

今按陳藏器

主傷寒能鐸人骨及六畜有損者取細研酒中溫服之直

入骨痛唐本先附○臣禹錫等謹按口華子云銅屑味苦平

微毒明目治霍亂轉筋腎堂及臍下

外臺秘要治凡洗訖微揩使破取銅屑和酢熱搗

又方赤銅屑以酢和銀器中炒極熱以

太清服煉靈砂法云銅稟東方乙陰之氣結

朝野僉載云定州人崔務墜馬折足醫者令取銅末和酒服

銅束

丹房鏡源云武昌銅若作

錫銅鏡鼻○臣禹錫等謹按月閉  
主女子血閉癥瘕伏腸絕



孕及伏尸邪氣生桂陽山谷陶隱居云此物與胡粉異類

故以附見錫品中也古無純銅作鏡者皆用錫雜之別錄

飲之若置醴中出入百過亦可持也鈇與錫本經云生桂

大異唐本注云臨賀出者名松一名白鑛雖此一處資

鏡別本注云凡鑄鏡皆用錫和不爾則不明白故言錫銅

微寒主治產後兒吐刺痛三十六候取七枚投醋中熬過

毒日華子云古鏡平微毒碎一切邪魅女人鬼交飛尸

催主及治暴心痛并燒酒淬服之

圖經文貝鈇

聖惠方治小兒卒中客忤用銅鏡子鼻燒之

銅青平微毒治婦人血氣心痛合金瘡止血明目去膚赤白

肉生銅皆有青青則銅之精華銅器上綠色是北庭者

佳治日時淘洗用新補見陳藏

陳藏器云陶云青銅不入方用後青銅明目去膚赤合金瘡

精華入者即空綠以次空青也

經驗方治痰涎潮盛卒中不語備急去石澄清同碌粉煨火

分同研以搗辰日辰時於辰位上修合再研勻入麝香一

酒研化下候吐涎出沫青碧色瀉下惡物

文方雞頭大每有中者纒覺便用薄河酒磨下醋麪糊和丸如

手其延如膠令人以

井底砂至冷主治湯火燒瘡用

千金方場螫人以井底泥

四百里生



肘後方 肘指忽不寤勿以火照大照之殺人但痛齒其理及是

又方 其姓名便起 不傷姓得時疫病令下

代赭



赤土



代赭味苦甘寒無毒主鬼疰賊風蠱毒殺精物惡鬼腹中毒邪氣女子赤沃漏下帶下百病產難胞衣不出墮胎養血氣除五臟血脉中熱血痺血瘀大人小兒驚風入腹及陰痿不起一名須丸 出姑幕者名須丸 一名血師生齊國山谷赤紅

青色如雞冠有澤染爪甲不渝者良採無時 畏天雄 陶隱

代郡城門下土江東久絕項魏國所獻猶是彼間赤土爾非復真物此與俗用乃疎而為仙方之要并與或蓋齒城門下土又言生齊地山谷今齊州亭山出赤石其色有赤紅青色者其赤者亦如雞冠且潤澤土人惟採以丹楹柱而紫色且暗此物與代州出者相似古來用之今靈州烏沙縣界河北平地掘深四五尺得者皮上赤滑中紫如雞肝大勝齊代所出者 臣禹錫等謹按藥性論云代赭使鴈門城土乾薑為使味其平主治女子崩中淋瀝不止癆生子不落落末溫服之辟鬼魅 蕭炳云代赭中淋瀝不止癆云代赭畏附子瀉痢脫精尿血遺溺金瘡長肉安胎健脾胃癩疥疾反胃止瀉痢脫精尿血遺溺金瘡長肉安胎健脾胃

圖經曰 代赭主齊國山谷今河東京東山中亦有之以赤紅

兒用代赭云無真者以左顧牡蠣代使乃知真者為勝得今醫家所用多採無時次條又有白聖生郭山各即盡家助用者多而且賤一名白善生胡居士云始興小桂縣晉



陽解有白善俗方稀用今慶慶皆有入家往往用以洗水  
山海經西山經石部之山其陰淮水出焉而北流于愚水  
其中牛角云以塗牛馬無病郭璞注云褚亦土也今人以  
朱塗之山其中多黃至又云大次之山其陽多至又此山經  
天池之山其中多黃至又云大次之山其陽多至又此山經  
多白黑青黃至注云言有雜色之至也然則褚以西土者  
為貴至有五色  
入藥雜白者耳

雷公云

凡使不計多少用鵬水細研盡重重飛過水面上有  
赤即取出又研一萬匝方入用淨鐵罐一口著火得鐵熟底  
沸一二千度了如  
此放於取出使之

斗門方

治大腸風用血師一兩半醋一升以火燒血師通赤  
即差如神矣血  
師即代褚也

御藥院

多治風瘰癧疼痒不可忍亦止不計  
丹房鏡源云代褚出  
金代褚出

別說云

謹按今慶州歲貢數不  
萬斤其色亦丹鮮

衍義曰

代褚方土燼火中多用下頭  
白聖即白善土京師謂之白  
於市人得以浣衣今人合王瓜等  
頭痛赤土今公府用以飾椽柱者

治風  
瘰

瓦澤堅實赤紫色者佳  
玉子方寸許切成段  
水調細末湯點一二錢服以

永州石鷲



石鷲以水煮汁飲之主淋有效婦人難產兩手各把一枚立

驗出零陵

唐本注云俗云因需雨則從石穴中出隨兩飛  
○唐本注云俗云因需雨則從石穴中出隨兩飛  
○臣禹錫等謹  
按獨本注云爾雅云似蚌而小堅重如石也○臣禹錫等謹



鷲王消渴取水牛鼻和煮飲之自死者鼻不如落崖死者  
良唐本先附○臣禹錫等謹按蕭炳云別有乳洞中食乳  
有命者亦名石鷲無毒出南土穴中疑疆似石者佳  
子云石鷲出零陵郡今永州祁陽縣江傍沙灘上有之形  
圖經曰以蚌而小其實石也或云生山洞中因雷雨則飛出

墮於沙上各化爲石未審的否今人以無時  
令產婦兩手各握一枚須臾子則下採食餘月採者只堪治  
食療云在乳穴石洞中者冬月採之堪食和五味炒令熟以  
酒一斗浸三日即每夜對時飲一兩蓋  
隨性也甚能補益能喫食令人健力也

聖惠方治傷寒小腹痛脹滿小便不通用石鷲搗羅  
爲末不計時候葱白湯調半錢得通爲度  
簡要濟衆治淋疾石鷲子七箇擣如黍米粒大新桑根白皮  
三兩剉如豆粒同拌令均分作七貼用水一盞煎

靈苑方治久患腸風痔瘻一二十年不差面色虛黃飲食無  
味及患臟腑傷損多患泄瀉暑月常瀉不止及諸  
淋瀝諸疾皆主之用人月候湛濁赤白帶下多年不差  
服空取午前去滓每

心取一枚於堅硬無山心窳器內以溫水磨服之如彈丸大  
者一箇分三服大小  
先許羅爲末以磁石  
硬乳地研細水飛過  
半錢至一錢清飲  
年腸風痔瘻須常服勿  
行義曰石鷲今人用者  
無羽翼焉能自  
近安唐本注永州十一  
重知石則此自是一  
物餘說不可取漬虛積藥中多用

戎鹽味鹹寒無毒主明目目痛益氣堅肌骨去毒蠱心腹痛  
溺血吐血齒舌血出一名胡鹽生胡鹽山及西羌北地酒泉

福祿城東南角北海之南南海赤十月採○陶隱居云今俗中  
鹹勇鹽即是河東大蓋形如結冰圓  
夜勇中蓋乃有九種白蓋食蓋常食者黑蓋主腹脹氣滿  
用蓋主耳聾目痛柔蓋主馬脊瘡又有赤蓋主腹脹氣滿  
齒蓋四種並不入食馬齒即犬蓋黑蓋是鹵鹹柔蓋是  
是成蓋而此戎蓋又名胡蓋並主眼痛二三相亂今戎蓋  
虜中甚有從涼州來苜蓿河南使及北胡客從燉煌來



亦得之自是稀少兩其形作塊片或如雞鴨卵或如菱米  
色紫白味不甚鹹口嘗氣臭正如破竹方青黑色善養馬  
南鹽池泥中自有疑鹽如石片打破皆方最爲要用又巴  
脊齋又疑此或疑是鹽雖多種而或疑鹵鹹最爲要用  
東胸臆縣北岸大有鹽井鹽水自疑生粥子益方一寸  
中央突張纖形亦有方如石膏傳纂者李云戎鹽味若臭  
是海潮水澆山石經久益凝著石取之北海者青南海者  
紫赤又云鹵鹹即是人煮鹽釜底疑強鹽萍如此二說並  
未詳○唐本注云陶稱鹵鹹疑是黑鹽此是鹵土議如前  
說其戎鹽即胡鹽沙州名爲禿登鹽廓州名爲陰土鹽生  
河岸山坂之陰土石間塊大小不常堅白似石燒之不鳴  
咤爾○臣禹錫等謹按陳藏器云益藥味鹹無毒主眼赤  
皆爛風赤細研服之水和點目中又入腹去熱煩痰滿頭痛  
目鎮心水研服之著瘡正兩摩傳生海西南雷羅諸州山各  
入腹水消服之極冷南人多取傳齊腫少有服者恐  
似芒消末細入口極冷○日華子云戎鹽平助水煎益  
冷入腹傷人且宜慎之○戎鹽平助水煎益  
氣除五臟癥瘕心腹積聚痛瘡疥癬等即西番所出食  
號戎鹽又  
名羗鹽

圖經文具食

陳藏器云戎鹽

丹房鏡源云戎鹽赤黑二色

衍義曰戎鹽戎聚裁之如枕細白味甘鹹亦

大鹽味甘鹹寒無毒主腸胃結熱喘逆胃中病令人吐生耶

鄆及河東池澤也○唐本注云大鹽即河東印益

○臣禹錫等謹按

太平廣記梁四公子傳載赤曰友河之間平積中掘

衍義曰大鹽新者不苦久則鹹苦今解州鹽池所出者皆成

多黑互有得共入藥及金銀作多苦海煎成者但味和

及接藥入腎使不腐

以益淹尸使不腐



鹵鹹味苦鹹寒無毒主大熱消渴狂煩除邪及下蠱毒柔肌

膚去五臟腸胃留熱結氣心下堅食已嘔逆喘滿明目司痛

生河東鹽池陶隱居云煎鹽不金煎明非唐本注云鹵鹹

名鹵鹹今人熟皮用之斯則於鹹地掘取之

圖經文具食鹽條下

丹房鏡源云鹵鹽純劑四黃作鮮藥

漿水味其酸微温無毒母主調中引氣宣和強力通開胃止

渴霍亂洩痢消宿食宜作粥薄暮啜之解煩去睡調理腑臟

粟米新熟白花者佳煎令醋止嘔噦白人膚體如緞帛為其

富用故人不齒其功水漿至冷婦人懷妊不可食之食譜

也補

外臺秘要大妙赤膏去黑子方夜以暖漿水洗面以布揩黑子令

洗面仍以麩糞粉黑子

孫真人食忌小指腫方煎漿水和益熱漬之冷即易

人方食生脯腊遇多筋痛悶絕者細漿水粥以

兵部手集乾薑霍亂頗有神效漿水稍醋味者煎

產寶云孕婦少許易產酸漿水

楊氏產乳云凝完骨瘦不成人

衍義曰漿水不可同李實

華水味其平無毒王人九竅大驚出血以水噴面亦主口

正朝含之吐弃廁下數度即差又令好顏色和朱砂服之

又堪煉諸藥石投酒醋令不腐洗目膚醫及酒後熱劑與諸



水有異其功極廣此水井中平日第一汲者本經法井苔條

中略言之今此里細解也新

十全方治心悶汗出不識人新

又方欲產時取并花

又方治馬汗及毛入人瘡腫毒熱酒入腹

又方善人以此水浸瘡頰易飲好

梅師方治眼睛無故突一二寸者以新

又方治卒驚悸九竅血皆溢出以

符義井花水具

花水味其温無毒除風補衰服不老令人好顏色肥健

陽道温中去瘡疾出南陽酈縣北潭水其源悉芳菊生被

崖水為菊未盛洪之荊州記云酈縣菊水太尉胡廣久患風

羸常汲飲此水後疾遂瘳此菊甘美廣後收此菊實播之京

師處處傳植抱朴子云南陽酈縣山中有其谷水所以其者

谷上左右皆生其菊菊花墮其中歷世彌久故水味為變其

臨此谷中居民皆不穿井悉食其谷水食無不壽考故司空

王暢太尉劉寬太傅袁隗皆為南陽太守每到官常使酈縣

月送其谷水四十斛以為飲食此諸公多患風痺及眩冒皆

得愈新

衍義曰菊花水本條言南陽酈縣北潭水其源悉芳菊生被

過尺百花之中此特淺露木泉莫非深遠而來况菊根亦

因花而香其花當九月十月間止三兩旬中焉得香入水也若

苦焉知無有菊味者常官於水惟間公幹至洪門北山下



古石渠中泉水清激泉官而飲其味與惠山泉水等亦  
微香世昔未知之烹茶尤相宜由是知泉味如此非綠淨  
土上所生菊能變泉味  
博識之士宜細詳之

### 地漿寒主解中毒煩悶

○陶隱居云此掘地作坑以水沃其中  
覺令濁俄頃取之以解中諸毒山  
中有毒菌人不識煮食之無不死又楓樹菌食之令人笑  
不止惟飲土漿皆差餘藥不能救矣○今注唐本原在真  
部下品之而今移○巨禹錫  
等謹按日華子云地漿無毒

### 聖惠方

治熱渴心悶服  
地漿一盞並妙

### 梅師方

以水生因中毒掘地深三尺取土三升  
以水五升煎五沸清之一升即愈

臘雪味甘冷無毒解一切毒治二入行時氣溫疫小兒熱癩狂

啼大人丹石發動酒後暴熱黃疸心仍小溫服之藏淹一切果

實良春雪有蟲水亦便敗所以不收之

新補見陳藏器及日華子

### 說云

謹按霜治暑月汗漬腋下赤腫及癩瘡以和蚌粉傳  
之立差瓦木上以雞毛羽掃取收甕瓶中時久不壞

今宜附  
臘雪後

### 衍義

臘雪文具半  
天河條下

泉水味甘平無毒主消渴反胃熱痢熱淋小便赤澀兼洗漆

瘡射癰腫令散久服却溫調中下熱益利小便並多飲之又

新汲水百一方云患心腹冷病者若男子病令女人以一杯

與飲女子病令男子以一杯與飲又鮮合口椒毒又主食魚

肉為骨所體取一杯水合口向水張口取水氣體當自下又

主人忽被墜損腸出以冷水噴之令身噤腸自入也又臘日

夜令人持椒并傍無與人語內椒并中服此水去溫氣博物

志亦允諸飲水療疾皆取新汲清泉不用停汚濁暖非直無

効固亦損人



沈存中筆談東阿是濟水所取其井水者其膠謂之阿膠用攪

趨下清而重故以治痰濁及逆上之疾

半天河微寒主鬼疰狂邪氣惡毒也陶隱居云此竹籬頭水

洗諸瘡用之○今按陳藏器本草云半天河在槐樹間者主諸風及惡瘡風癢疥痒亦温取洗瘡○今注唐本原在

草部今移○臣禹錫等謹按藥性論云半天河單用此竹籬頭水及高樹穴中盛天雨能殺鬼精恍惚妄語勿令知之與飲差○日華子

云平無毒主蠱毒

外臺秘要治身體白駁者浸淫漸長似癬但無瘡也

衍義曰半天河水一水也然用水之義有數種種各有理如

毒臘雪水大寒水也故解一切毒治天行時氣瘟疫熱癩丹石發酒後暴熱黃疸并華水清冷澄澈水也故通九竅

洗日膚臂及酒後熱痢後世又用東流水者取其快順疾速通閑下高者也倒流水者取其回旋留止上而不下者也

熱湯主忤死先以衣三重相忤死人腹上乃取銅器若瓦器

盛湯著衣上湯冷者去衣八冷者換湯即愈又霍亂手足轉

筋以銅器若瓦器盛湯熨之亦可令蹋器使脚底熱徹亦可

以湯將之冷則易用醋煮湯更良煮蓼子及吳茱萸汁亦好

以綿絮及破羶角脚以湯淋之貴在熱徹又線絲湯無毒主

蠅蟲熱取一盞服之此煮爾汁謂其殺蟲故也又燻猪湯無

毒主產後血刺心痛欲死取一盞温服之新補見抱朴

陳藏器云凡初覺傷寒三日內但取熱湯飲之候吐則止可

者執湯洗之効

野人閑話朱真人靈驗篇有病者患風疾數年不効掘坑令

簞蓋之羞



別說云謹按外臺秘要子有五六千顆水法以木盆盛水杓揚千

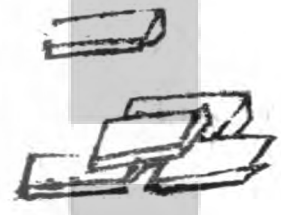
治奔豚藥用殊勝傷寒

行義曰熱湯助陽氣行經絡患風冷氣痺人多以湯涂脚至

也四時暴泄痢四股冷臍腹疼深湯中坐浸至腹上頻頻

守伺

白聖



白聖味苦辛溫無毒主女子寒熱癥瘕月閉積聚陰腫痛漏

下無子洩痢不可久服傷五臟令人羸瘦一名白善生邯鄲

山谷採無時○陶隱居云此即今書用者甚多而賤俗方亦

言始興小桂縣管陽鄉有白善○藥性論云白聖使米其

平主女子血結月候不通能習腸止痢溫煖○蕭炳云不

入湯○日華子云白善味甘治瀉痢瘕洩精女子

子宮冷男子水臟冷鼻洪吐血本名白聖入藥燒用

唐本餘注云此即今畫工用者甚易得

雷公云凡使勿用色青并灰白者先單搗令細三度篩過了

二兩用白蓋一分投於斗水中用銅器物內沸十餘

沸了然後用此沸了水飛過白聖免結渣入腸也

行義文具代灰味辛微溫主黑子去疔息肉疽蝕疥癢一名藜灰生方

谷川澤○陶隱居云此即今畫工用者甚易得

灰和水蒸以點之即去不可廣用冬人皮肉○唐本注云







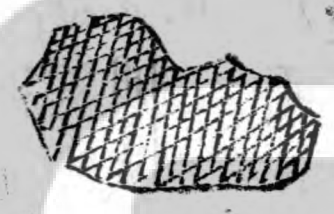
色之久而青黑枝柯似珊瑚而上有孔竅如虫蛀擊之有金  
禹貢雍州厥貢參琳璆其狀森植耳大有抵吉人謂然其石之美者多謂之明瑩若珠者而崑崙虛  
之參琳璆耳大有抵吉人謂然其石之美者多謂之明瑩若珠者而崑崙虛  
其狀森植耳大有抵吉人謂然其石之美者多謂之明瑩若珠者而崑崙虛  
云青珠黃環黃環是也故本經引以相並者亦謂其美如珠而  
底得之蓋邱鬼之物上所著皆出西北山中而今圖乃云海  
用也稀

唐本餘其味

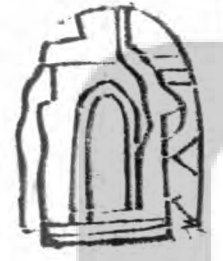
衍義曰

青琅玕書曰三危無一宅三危西裔之山也厥貢惟球  
琳琅玕孔穎達以謂此物陶隱居謂為木名大丹名  
戎西域記云天竺國正出更言其煉服之又可化為丹  
既是大丹名則本經豈可唐本注云是瑠璃之類且瑠璃  
陶不合遠引非此琅玕也經曰生蜀郡平澤安得同類言  
火成之物琅玕又非火成之謂今瑠璃者正如鬼  
之其說愈遠且佛經所謂也  
谷珠之類乃火成之物也

信州自然銅



石鎔



火山軍自然銅



自然銅味辛平無毒療折傷散血止痛破積聚生鬯州山巖  
中出銅處於坑中及石間採得方圓不定其色青黃如銅不  
從礦煉故號自然銅今附○禹錫等謹按日華子云自然  
以安心止驚悸

安酒摩服

圖經曰

自然銅生鬯州山巖中出方圓不定其色青黃如銅  
不從礦煉故號自然銅今附○禹錫等謹按日華子云自然  
銅礦中山氣重蒸自然銅今出亦若生銀如亂銅絲狀云  
藥最好火山雷者類如流亦若生銀如亂銅絲狀云  
用之功力薄無時今南方醫者說自然銅有兩三體一







方不甚須此○唐本注云金牙離本處入土水中久皆色  
黑不可謂之銅牙也此出美中金牙端兩岸入石間打  
出者內即金岸推入水久者皆黑近南山溪谷茂州維  
州亦有勝於漢中者○臣禹錫等謹按藥性論云金牙石  
君治一切風筋骨急腰脚不遂燒浸服之良○日華子  
云金牙石味甘平治一切冷風氣暖腰膝補水臟驚悸小  
兒驚癇入藥並燒  
淬去盪汁乃用

圖經曰此物出於溪谷在蜀漢江岸石間打出者內即金色  
岸推入水年久者多黑葛洪治風毒厥有大小金牙酒但  
及其汁而飲之古方亦有燒碎去毒入藥者孫思邈治風  
毒及鬼疰南方瘴氣傳尸等各有大小金牙散之類是也  
又有銅牙亦相似而外黑色方書少口凡用者小金牙酒主  
風疰百病虛勞濕冷緩不仁不能行止之近人用之多効故  
著其法云金牙細辛地膚子莽草乾地黃蒲葶根防風附  
子箇等續斷蜀椒各四兩獨活一斤十  
盛神藥餘皆薄切并金牙共內大絹囊  
密泥器口口宿酒成温  
服二合日三漸增之

行義曰金牙今方家絕不用以此改商客無  
由是委而不用燕所出惟蜀郡有之  
則不販賣醫者  
益亦不度也餘

經如

銅礦石味酸寒有小毒主丁腫惡瘡馬脊瘡臭腋石上水  
磨取汁塗之其丁腫末之傅瘡上良  
○今按別本注云狀如  
舊石而有銅星錄取銅

也唐本  
先附

銅弩牙主婦人產難血閉月水不通陰陽隔塞  
○陶隱居云  
即今人所用

射者爾取燒赤內酒中飲汁得古者彌  
勝○臣禹錫等謹按日華子云平微毒

聖惠方治小兒吞珠瑞錢而硬方燒銅  
千金方誤吞銅鐵而硬者燒銅弩牙令赤內酒中飲之立愈  
今易產銅弩牙燒令赤接醋三合服良久頓服立產

并州金星石



并州銀星石



濠州銀星石





金星石寒無毒主脾肺壅毒及主肺損吐血嗽血下熱涎解  
衆毒今多出濠州又有銀星石主療與金星石大體相似新  
圖經曰金星石生并州濠州寒無毒主脾肺壅毒及肺損出  
血嗽血下熱涎解衆毒又有一種銀星石石體性亦相  
似採  
無時

衍義曰金星石銀星石治大風疾別有法須燒用金星石於  
深青色堅潤中有金色如葉片銀星石有銀星葉片又一種  
藥工人碾爲器或婦人安飾飾餘如紐

特生礬石味其温有毒主明目利耳腹內絕寒破堅結及鼠

瘦殺百蟲惡獸久服延年一名蒼礬石一名鼠毒生西域採

無時火煉之良畏水陶隱居云舊鶴巢中者最佳鶴常入  
水冷故取以壅郊令

形紫赤色內白如霜中山八有白形狀如齒者佳大藥方云  
又出荆州新城郟房陵也  
包燒之一日亦可內芥孔  
不云特生則止是前白  
石中燒之合王壺諸丸用此特生

云中如齒白形者是今出梁州北馬道成瀾中亦有之形  
塊小於白礬石而肌粒大數倍以如小豆許白礬石粒細  
若粟  
木爾

圖經文具礬石條下

握雪礬石味甘温無毒主痼冷積聚輕身延年多食令人熱

○唐本注云出徐州西宋里山入土丈餘於爛土石間黃  
白色細軟如麵一名化公石一名石腦煉服別有法唐本  
先附○臣禹錫等謹按蜀本注云今據中品自有石腦  
一條主治與此甚別應似徐長卿一名鬼督郵之類也

圖經文具礬石條下

丹房鏡源握雪礬石乾汞

梁上塵主腹痛噎中惡鼻衄小兒軟瘡唐本先附○臣禹錫

塵微寒○日華  
子云平無毒

雷公云凡使須去煙火遠高堂



外臺秘要

治小便不通及胞轉取梁

又方

治自縊死用梁上塵極力吹兩耳鼻中即活

千金方

如乳梁上塵醋和

又方

治婦人日月未足而欲產取梁上

千金翼

凡難分用醋和傳之

子母秘錄

治橫生不可出梁上塵

又方

治小兒頭瘡梁上塵和油取

土陰孽味鹹無毒主婦人陰蝕大熱乾痂生高山崖上之陰

色白如脂採無時

○陶隱居云此猶似鍾乳孔公孽之類故採用○唐本注云此即土乳且出滑州鄭縣三交驛西北坡平地上窟中見有六十餘坎昔人採處土人云服之亦同鍾乳而不發熱陶及本注云此則土脂液也生於今

穴狀如殷孽故名今據本經所載既

車脂主卒心痛中惡氣以温酒調及熱攪服之又主婦人如

乳乳癰取脂熬令熱塗之亦和執酒服今附○臣禹錫等謹按陳藏器云車脂味

辛無毒主見氣温酒焯令熱服之

聖惠方治蝦蟇及蝥蟧毒得之心腹脹滿口乾思水不能食

其蠱即出

外臺秘要治時耳膿血出取車

千金方治小兒驚啼車轄脂如小

別說云謹按車脂塗衣不可洗滌唯以生

釭中膏主逆產以膏畫兒脚底即正又主中風發狂取膏如

雞子大以熱醋攪令消服之附今



千金方 治妊婦熱病方取車

又方 治末內酒中痛燒車轄

梅師方 治諸虫入耳取車轄

子母秘錄 治產後陰脫燒車轄頭脂內

鍛竈灰主癥瘕堅積去邪惡氣 陶隱居云即今鍛鐵竈中

有効○臣禹錫等謹按唐本云貳車丸用之○陳藏器云  
竈突後黑土無毒主產後胞衣不下末服三指撮煖水及  
酒服之天未明時取至驗也又云竈中熱灰  
和醋熨心腹冷氣痛及血氣絞痛冷即易

圖經 文具石

經驗方 治婦人崩中用百草霜三錢狗膽汁

續十全方 治暴瀉痢百草霜

杜士方 治逆生橫生瘦胎並娠產前產後虛損月候不調

許調勻更以熱湯化開服下過二服即差

治瘡 頭瘡及諸熱瘡先用醋少許和水淨洗去痂再用溫

淋石無毒主石淋此是患石淋人或於溺中出者如小石水

磨服之當得碎石隨溺出 按今附○臣禹錫等謹

陳藏器云 湖中出正如小石非他物也候出時收之淋為

方解石味苦辛大寒無毒主胃中切田熱結氣黃疸通血脉去

蠱毒一名黃石生方山採無時 惡巴豆一名方石療體亦相似

疑是此也○唐本注云此石性冷療熱不熱石膏也○  
注此物大體與石膏相似惟不附石而生端然通處形塊  
大小不定或在上方或生溪水得之敲破  
皆方解故以為名今沙州大鳥山出者佳

圖經 文具石

礞石治食積不消留滯在臟腑宿食癥塊久不差及小兒食



積羸瘦婦人積年食癥攻刺心腹得硃砂巴豆大黃京三稜  
等良可作丸服用之細研為粉一名青礞石新定

石薑州齊



石黃龍



薑石味鹹寒無毒主熱豌豆瘡丁毒等腫生土石間狀如薑  
有五種白色者最良所在有之以爛不礮者好齊州歷城東

石良唐本附

經曰薑石生

出乳無時佳之

亦善丁腫單用白薑石末和雞子清傅之  
狀如薑有五種用色白者以爛而不礮者好  
亦善丁腫單用白薑石末和雞子清傅之

導彥背瘡取醋栗頰燒淨石至盡取屑暴乾持筒和醋塗  
中因有疥瘡錫謂之煉石法用之傳瘡腫無不愈者世人  
又傳麥飯石磨磴者尤佳醋中浸之良久又燒如此十遍鹿角一具連  
火燒赤投米腦骨者二三寸截之炭火燒令燥出即止白欵末與石末  
等分鹿角倍之三物同杵篩令精細取二年米醋於鑊中  
煎如魚眼沸即下前藥調和令如寒食餒以篋傳與腫上  
惟留腫頭如北頭面勿令有藥使熱氣得洩如未有腫膿即  
當內消若已作小頭即撮令小其病久得此膏直至肌肉爛  
落出筋骨者即與細布上塗之貼於瘡上乾即易之但中  
隔不穴者即無一月不差其瘡腫時切禁手觸其効極神異此  
方孫思邈千金一月不差其瘡腫時切禁手觸其効極神異此  
稍備耳又水中圓石一兩挽燒令極熱寫入清水中沸定後洗腫處  
水立

外臺秘要

救急治乳癰腫如大枕痛甚取白薑石搗末一二  
外用雞子白和如錫傳腫上乾易之此方頗試驗



衍義曰 蓋石所在皆有須不見日色  
旋取微白者佳治丁腫殊効

深州井泉石



并泉石大寒無毒主諸熱治眼腫痛解心滅熱結消去腫毒  
及療小兒熱疳雀目青盲得大黃菟子治眼瞼腫得决明菊  
花療小兒眼疳生醫膜甚良亦治熱嗽近道處處有之以出  
饒陽郡者為勝生田野間地中穿地深丈餘得之形如土色  
圓方長短大小不等內實而外則重重相疊採無特用之當  
細研為粉不爾使入淋入有一種如薑石時人多指以為井

泉石者非是新定

圖經曰 并泉石生深州城西二十里劇家村地泉內深一丈  
重疊相交其性大寒無毒解心臟熱結消  
去腫毒及療小兒熱疳不拘時月採之

蒼石味甘平有毒 主寒熱下氣瘦蝕殺禽獸生西域採無時

○陶隱居云俗一名蒼碧石而  
石同處有青色者並毒殺禽獸與碧石同漢中亦取以  
毒鼠不入方用此石出梁州均州房州與二碧石同處特  
生蒼石並生西梁州特生亦有青者今房陵漢川與白碧  
在漢川金州也

圖經 石條下

陝西花藥石





花乳石主金瘡止血又療產婦血暈惡血出陝華諸郡色正黃形之大小方圓無定欲服者當以大火燒之金瘡止血正

爾刮末傳之即合仍不作膿潰或名花藥石新定

圖經曰花乳石出陝州閿鄉縣體至堅重色如硫黃形塊有極大者人用琢器古方未有用者近世以合硫黃同

煨研末傳金瘡其効如神又人倉卒中金刃不及煨合但刮石上取細末傳之亦効採無時

別說云一種玉石中品有花藥石

行義曰花乳石其色如硫黃本經第五卷中已著今出陝華

其名爲花藥石是却取其色黃也更能鑄爲器圖經第二卷中易

爲世所惑故書之

石蠶無毒主金瘡止血生肌破石淋血結摩服之當下碎石生

海岸石傍狀如蠶其實石也今附○臣禹錫等謹按藥

石腦油主小兒驚風化涎可和諸藥作丸服宜以瓷罈貯之

不可近金銀器皿雖至完密直爾透之道家多用俗方亦不甚

須新定

圖經文具鍾乳

行義曰石腦油真者難收多參磁器之物今入藥最少燒煉或

須也常用有油去聲器貯之及研生磁霜入石腦

子然泣盡油出之以再研再入油再上火凡如此共兩次

白瓷瓦屑平無毒主婦人帶下白崩止嘔吐破血止血水摩

塗瘡滅癩定州者良餘皆不如唐本

經驗後方治鼻衄久不止定州白瓷瓦細搗研

櫻師方始人面日卒得赤黑丹如齊狀不急治編身



烏古瓦寒無毒以水煮及漬汁飲止消渴取屋上年漆者良

唐本先附○臣禹錫等謹按藥性論云烏古瓦煎汁服之煎湯服餅人中火傷當取土底深者燒古且潤三角下大三角

瓦上灸之

**潞州不灰木**



不灰不大寒主熱癩瘡和棗葉石灰為粉傅身出上黨如爛木燒之不然石類也附今

**圖經曰**不灰木出上黨今澤路山中皆有之蓋石類也其色青白如爛木燒之不然以此得名或云滑石之根也

出滑石處皆有亦名無灰木株無時今夔州山中出一松石如松幹而實石也或云松久化為石人家多取以飾山亭及琢為枕雖不入藥然與不灰木相類故附之  
**陳藏器**要燒成灰即研破以牛乳煮了便燒黃牛糞燒之成灰中和二年被李宗處見傳  
**丹房鏡源**云不灰木煮承

**氣砂**



**鵬砂**



蓬砂味苦辛暖無毒消痰止咳破癥結喉痺及錫金銀用或

名鵬砂新補見

**圖經**砂文具條下



行義曰能成砂含化點津治喉中腫痛膈上痰熱初覺便治不

鈔霜冷無毒消痰止驚悸解酒毒療胃膈煩悶中風痰實止

渴新補見

圖經又具鈔

簡要濟眾治室女月露滯澁心煩恍惚鈔白霜細研為散每

十全傳救治鼻衄方鈔白霜為

衍義曰鈔霜圖經已著其法治上膈

一文錢平治腎障明目療風赤眼鹽酒浸用婦人橫逆產心

痛月隔五淋燒以醋淬用新補見

圖經文具鈔

陳藏器云大錢銀注中陶云不入

心腹痛主比輪錢以新汲水投

人患

行義曰古文錢古銅焦赤有毒治

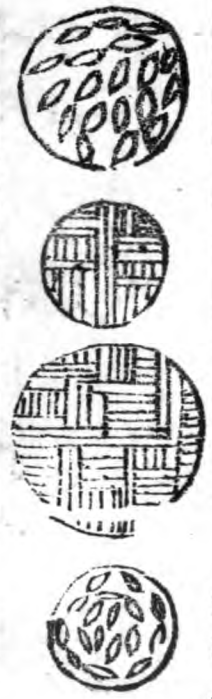
京王時大泉五十及寶貨秦半兩漢莢錢大小五銖吳大

泉五百大泉當千宋四銖二銖及梁四銖北齊常平五銖

爾後其品尚多如此之類方可用少時常自患暴赤目腫

錢刮取薑汁就錢稜上點初甚苦熱淚篋面然終無損後

黃州越





蛇黃主心痛疰忤石淋產難小兒驚癇以水煮研服汁出嶺南蛇腹中得之圓重如錫黃黑青雜色今注蛇黃多赤色有

唐本先附○臣禹錫等謹按日華子云冷無毒鎮心如入藥燒赤三四次醋淬飛研用之

圖經曰蛇黃出嶺南今越州信州亦有之本經云是蛇腹中

野人或得之今醫家用者大如彈丸堅如石外黃內黑色二月採云是蛇冬蟄時所含土到春發熱吐之而去與舊

說不同未

### 三十五種陳藏器餘

玉井水味甘平無毒久服神仙令人體潤毛髮不白出諸有

玉處山谷水泉皆有猶潤於草木何況於人乎夫人有髮毛

如山之草木故山有玉而草木潤身有玉而毛髮黑異類云

崑崙山有一石柱柱上露盤盤上有玉水溜下土人得一合

服之於天地同年又太華山有玉水人但行服之長生玉既重

寶水又靈長故能延生之望今人近山多壽者豈非玉石之

津乎故引水為玉證

碧海味鹹小温有小毒煮浴去風去瘧瘰癧飲一合吐下宿

食臚脹夜行海中撥之有火星者鹹水色既碧故云碧海東

方朔十洲記云

千里水及東流水味平無毒主病後虛弱湯之萬過者藥禁

神驗二水皆堪壘滌邪穢煎煮湯藥禁咒鬼神潢汗行潦尚

可薦羞王公况其靈長者扒蓋取其潔誠也本經云東流水

為雲母所謂煉雲母用之與諸水不同即其効也

秋露水味甘平無毒在百草頭者愈百疾止消渴令人身輕



不飢肌肉悅澤亦有化雲母成粉朝露未晞時拂取之栢葉  
上露主明目百花上露令人好顏色露即一般所在有異主  
療不同

甘露水味甘美無毒食之潤五臟長年不飢神仙緣是感應  
天降祐兆人也

繁露亦是秋露繁濃持也作盤以收之前煎令稠可食之延年  
不饑五月五日取露草一百種陰乾燒爲灰和并花水重煉  
令白醃醋爲餅腋下挾之乾即易主腋氣臭當抽一身間瘡  
出即以小便洗之續齊諧記云司農鄧沼八月朝入華山見  
一童子以五綵囊承取栢葉下露露皆如珠云赤松先生取  
以明目令人八月朝朝作露華明像此也漢武帝時有言雲

國有言雲草食之不死日照草木有露著也日五色東方朔得  
玄露青黃二露各盛五合帝賜群臣老者皆少病者皆愈東  
方朔曰日初出處露皆如糖可食漢武帝洞冥記所載今時  
人煎露亦如糖久服不飢呂氏春秋云水之美者有三危之  
露爲水即味重於水也

六天氣服之令人不饑長年美顏色人有急難阻絕之處用  
之如龜蛇服氣不死陽陵子明經言春食朝露日欲出時向  
東氣也秋食飛泉日沒時向西氣也冬食沆瀣北方夜半氣  
也夏食正陽南方日中氣也并天玄地黃之氣是爲六氣亦  
言平明爲朝露日中爲正陽日入爲泉飛夜半爲沆瀣及天  
地玄黃爲六氣皆令人不饑延年無疾者人有墮穴中穴中



有蛇蛇每日作此氣服之其人既見蛇如此依蛇時節饑時便服又即做蛇日日如之經久漸漸有驗即體輕健似能輕舉啓蟄之後人與蛇一時躍出焉

梅雨水洗瘡疥滅癩痕入醬令易熟沾衣便腐澣垢如灰汁有異化水江淮已南地氣卑濕五月上旬連下旬尤甚月令土潤溽暑是五月中氣過此節已後皆須曝書漢崔寔七夕暴書阮咸焉能免俗蓋此謂也梅沾衣皆以梅葉湯洗之脫也餘並不脫

醴泉味甘平無毒主心腹痛疰忤鬼氣邪穢之屬並就泉空腹飲之時代亦平則醴泉涌出讀古史大有此水亦以新汲者佳止熱消渴及反胃腹痛霍亂為上

甘露蜜味甘平無毒主胃腸諸熱明目止渴生巴西絕域中如飴也

漢武帝

立金莖作仙人掌承露盤取雲表之露服食以求仙

冬霜寒無毒團食者主解酒熱傷寒鼻塞酒後諸熱面赤者

雷主醬味不正當時取一二升將醬甕中即如本味也

溫湯主諸風筋骨攣縮及皮頑癩手足不遂無眉髮疥癬諸疾在皮膚骨節者入浴浴乾當大虛憊可隨病與藥及飯食補養自非有他病人則無宜輕入又云下有硫黃即令水熱硫黃主諸瘡病水亦宜然水有硫黃臭故應愈諸風冷為上當其熱處大可燂猪羊

夏冰味甘大寒無毒主去熱煩熱熨人乳石發熱腫暑夏盛



熟食此應與氣候相反便非宜人或恐入腹冷熱相激却致諸疾也食譜云凡夏用冰止可隱映飲食令氣冷不可打碎食之雖復當時暫快久皆成疾今冰并西陸朝覲出之頒賜官宰應悉此淮南子亦有作法又以凝水石爲之皆非正冰也

諸方水味其寒無毒主明目定心去小兒熱煩止渴方諸大蚌也向月取之得二三合水亦如朝露陽燧向日方諸向月者能致水火也周禮明諸冰水於月諸之方諸陳饌明水以爲玄酒酒水也

乳穴中水味其溫無毒久服肥健人能食體潤不老與乳同功近乳穴處人取水作合釀酒則大有益也其水濃者稱重

他水煎上有藍花此真乳液也所謂穴中有魚出魚部中

水花平無毒主渴遠行山無水處和苦桔萋爲丸朝預服二

十丸永無渴亦入殺野獸藥和狼毒皂莢礬石爲散指安獸

食餘肉中當令不渴渴恐飲水藥解名水沫江海中間久沫

成乳石故如石水沫猶軟者是也

赤龍浴水小毒主癢結氣諸瘕惡蟲入腹及咬人生瘡者此

澤間小泉赤蛇在中者人或遇之經兩取水服及人浴蛇有

大毒故以爲用也

糧鬻中水味辛平小毒主鬼氣中惡症忤心腹痛惡夢鬼神

進一合多飲令人心悶又云洗眼見鬼未試害蛇蠱其清澄

又遠者佳古塚云文選留餘節以毒漬屍言此二物不爛餘



皆成水北人呼糧鬻爲食鬻也

醜氣水主長毛髮以物於炊飲飯時承取沐頭令髮長密黑潤不能多得朝朝梳小兒頭漸漸覺有益好

好井水及土石間新出泉水味甘平無毒主霍亂煩悶嘔吐腹空轉筋恐入腹及多服之名曰洗腸人皆懼此嘗試有效不令腹空空則更服如遇力弱身冷則恐臟胃悉寒寒則不注支持當以意消息兼及當時橫量灸脊骨三五十壯令煖氣徹內補胃氣間不然則危又主消渴及胃熱痢淋小便赤澁兼洗漆瘡射癰腫令散又服調中下熱氣傷胃利大小便並多飲之令至喉少即消下

正月雨水夫妻各飲一杯還房當獲時有子神效也

生熟湯味鹹無毒熱鹽投中飲之吐宿食毒惡物之氣臚脹欲爲霍亂者覺腹內不穩即進一二升令吐得盡便愈亦三痰瘡皆須吐出痰及宿食調中消食又人大醉及食瓜莫過度以生熟湯浸身湯皆爲酒乃瓜味博物志云浸至腰食瓜可五十枚至脛頸則無限未試

屋漏水主洗犬咬瘡以水洗屋簷承取用之以水滴簷下令土濕取土以傅犬咬處瘡上中大有毒誤食必生惡疾

三家洗椀水主惡瘡久不差者煎令沸以鹽投中洗之不過三五度立効

蟹膏投漆中化爲水仙人用和藥博物志亦載又蚯蚓破之去泥以鹽塗之化成水大主天行諸熱小兒熱病癩癩等疾



新注云奎丹毒并傳漆瘡効

猪槽中水無毒主諸蠱毒服一盃主蛇咬可浸瘡皆有効驗者矣

市門衆人溺坑中水無毒主消渴重者取一小盞服之勿令病人知之三度差

鹽膽水味鹹苦有大毒主蠶蝨疥癬瘰癧蟲咬馬牛爲蟲蝕毒蟲入肉生子毒六畜飲一合當時死人亦如之並鹽初熟槽中瀝黑汁也主瘡有血不可傳也

水氣有毒能爲風濕疼痺水腫面黃腹大初在皮膚脚手入漸至六府令人大小便澁至五藏漸漸加至忽攻心便死急不旋踵無寬延歲月既是陰病復宜以陰物生類諸猪魚螺

蠶之屬春夏秋宜瀉冬宜補藥尤宜浸酒中服之隨陰陽所行者昔馬援南征多載薏苡以仁閔叔留寓常食猪肝蓋以爲濕疾也江湖間露氣成障而山夾水中氣瘴一冷一熱相激成病癥此三疾俱是濕爲能與人作寒熱消鑠骨肉南土尤甚若欲醫療須細分析其六畧皆瘴類也人多一槩醫之則不差也

塚井中水有毒人中之者立死欲入塚井者當先試之法以雞毛投井中毛直而下者無毒毛迴旋而舞似不下者有毒以熱醋數斗投井穴中則可入矣凡塚井及竈中從夏至秋毒氣害人從冬至春則無毒氣凡秋露春水著草水亦能害人冬夏則無人素爲物所傷并有諸瘡觸犯毒露及毒水覺



瘡頑不痒痛當巾風水所爲身必反張似角弓主之法以鹽  
豉和麪作梳子蓋瘡上作大艾炷灸二百壯令抽惡水數升舉  
身覺痒瘡處知痛差也

陰地流泉二月八月行途之間勿飲之令人夏發瘡瘻又損  
脚令軟五月六月勿飲澤中停水食著魚鱉精令人驚癡病  
也

銅器蓋食器上汗滴中令人發惡瘡內疽食性急之也  
炊湯經宿洗面令人無顏色洗體令人成癬木經宿者洗面  
令人亦然

諸水有毒水府龍宮不可觸犯水中亦有赤脉不可斷之井  
水沸不可食之已上一並害人東晉温嶠以物照水爲神所怒

楚詞云鱗屋貝闕言河伯所居外國語云子桓子穿井獲土在  
仲尼曰水之怪魍魎土之怪繡只羊水有脉及沸並見白澤圖

重修政和經史證類備用本草卷第五







